

学校コード F112310102583

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

植草学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人植草学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学事務局企画課

職名・氏名 カチョウ ヤナギ エイコ
課長 柳 英子

電話番号 043-233-9061

（夜間） なし

e-mail kikaku1@uekusa.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

保健医療学部

＜リハビリテーション学科 理学療法学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況, 経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	32
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人植草学園

(2) 大学名

植草学園大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒264-0007
千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ウエクサ カズノリ) 植草 和典 (平成28年4月)		
学長	(ナカザワ ジュン) 中澤 潤 (平成30年4月)		
学部長	(クワナ シュンイチ) 桑名 俊一 (平成30年4月)		
学科長等	(クワナ シュンイチ) 桑名 俊一 (平成27年4月)	(ミウラ タツヒロ) 三浦 達浩 (令和2年4月)	任期満了に伴う変更(令和2年4月1日)(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 学士(理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4 年	40 人	年次 編入学定員 人	160 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期											
A 入学定員	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	1.11倍	— 倍				
志願者数	(—) [—]	126 (—) [—]	— (—) [—]	120 (—) [—]	— (—) [—]	142 (—) [—]	— (—) [—]						
受験者数	(—) [—]	118 (—) [—]	— (—) [—]	105 (—) [—]	— (—) [—]	134 (—) [—]	— (—) [—]						
合格者数	(—) [—]	59 (—) [—]	— (—) [—]	76 (—) [—]	— (—) [—]	83 (—) [—]	— (—) [—]						
B 入学者数	(—) [—]	46 (—) [—]	— (—) [—]	43 (—) [—]	— (—) [—]	44 (—) [—]	— (—) [—]						
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	1.15	—	1.07	—	1.10	—			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	46 [-] (-)	- [-] (-)	43 [-] (-)	- [-] (-)	44 [-] (-)	- [-] (-)				
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	44 [-] (-)	- [-] (-)	47 [-] -4	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	50 [-] -10
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	46 [-] (-)	87 [-] (-)					141 [-] (14)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	46 人	2 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人) 就学意欲の低下(1人)
令和3年度	87 人	4 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	4 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人) 就学意欲の低下(1人) 就職(1人) 他の教育機関への入学・転学(1人)
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	141 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合計		6 人				

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{46} = \boxed{4.34} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{87} = \boxed{4.59} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{141} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	人間と道徳	1前	2								1		
	哲学入門	1・2後		2							1		
	倫理学入門	1・2後		2							1		
	心理学	1・2前	2								1		
	教育学入門	1・2前		2							1		
	文学の世界	1・2前		2							1		
	音楽の世界	1・2後		2							1		
	歴史学	1・2前		2							1		
	法学入門	1・2後		2							1		
	日本国憲法	1前		2							1		
	政治学	1・2前		2							1		
	経済学入門	1・2前		2							1		
	社会学入門	1・2前		2							1		
	基礎物理学	1・2前		2							1		
	基礎化学	1・2前		2							1		
	基礎生物学	1・2前		2							1		
	統計学入門	1・2後	2								1		
	人間関係論	1・2前	2								1		
	国際関係論	1・2後		2							1		
	コミュニケーション論	1・2後	2								1		
	環境科学	1・2後		2							1		
	障害インクルージョン論	1・2後		2							1		
	小計(22科目)	-	10	4	34							22	
	体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後		1							1	
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後		2							1	
		スポーツ健康科学基礎理論	1後		1							1	
		体育(ソフトボール)	1・2前		1							1	
		体育(バドミントン)	1・2後		1							1	
		体育(テニス)	1・2前		1							1	
		体育(弓道)	1・2前		1							1	
		体育(ダンス)	1・2後		1							1	
		体育(水泳)	1・2前		1							2	
		小計(9科目)	-	0	2	10	0	0	0	0	0	0	10
		国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2			1					2
			英語Ⅱ	1後	2			1					1
			英会話	1・2前・後		2							1
	実践英語		1・2後		2		1					1	
	中国語入門		1・2前		2							1	
	フランス語入門		1・2前		2							1	
	ドイツ語入門		1・2後		2							1	
	小計(7科目)	-	4	2	10	0	3	0	0	0	0	8	
	基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後		2							1	
		文章表現演習	1前		2							2	
読書技術演習		1・2前・後		2							2		
自然科学基礎演習		1前	2			1					0		
海外福祉研修		1・2・3・4		1		1					0		
小計(5科目)		-	2	2	7	2	0	0	0	0	0	5	
合計(43科目)	-	16	10	61	2	3	0	0	0	0	45		
教育科目	解剖学	1前	2			1							
	解剖学実習	1後	1			1							
	生理学	1前	2			1							
	生理学実習	1後	1			1							
	人体機能構造学演習	1前	1								1		
	運動学Ⅰ	1後	1			2							
	運動学Ⅱ	2前	1			2							
	運動学実習	2後	1			2							
	臨床心理学	2前	1								1		
	人間発達学	2後	1								1		

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	人間と道徳	1前	2									1		
	哲学入門	1・2後		2								1		
	倫理学入門	1・2後		2								1		
	心理学	1・2前	2									1		
	教育学入門	1・2前		2								1		
	文学の世界	1・2前		2								1		
	音楽の世界	1・2後		2								1		
	歴史学	1・2前		2								1		
	行動科学入門	1・2後		2								1		
	法学入門	1・2前		2								1		
	日本国憲法	1前		2								1		
	政治学	1・2前		2								1		
	経済学入門	1・2前		2								1		
	社会学入門	1・2前		2								1		
	基礎物理学	1・2前		2								1		
	基礎化学	1・2前		2								1		
	バイオリテラシー入門	1・2前		2								1		
	統計学入門	1・2前	2									1		
	データサイエンス入門	1後		2								1		
	人間関係論	1・2前	2									1		
	国際関係論	1・2後		2								1		
	コミュニケーション論	1・2後	2									1		
	環境科学	1・2後		2								1		
	障害インクルージョン論	1・2後		2								1		
	小計(24科目)	-	10	4	38	0	0	0	0	0	0	24		
	体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後		1								1	
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後		2								1	
		スポーツ健康科学基礎理論	1後		1								1	
		体育実技A	1・2前		1								1	
		体育実技B	1・2前		1								1	
		体育実技C	1・2後		1								1	
		体育実技D	1・2前		1								1	
		小計(7科目)	-	0	2	8	0	0	0	0	0	0	7	
		国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2			1						2
			英語Ⅱ	1後	2			1						2
	英会話		1・2前・後		2								1	
	実践英語		1・2後		2		1						1	
	中国語入門		1・2前		2								1	
	フランス語入門		1・2前		2								1	
	ドイツ語入門		1・2後		2								1	
	小計(7科目)	-	4	2	10	0	3	0	0	0	0	8		
	基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後		2								1	
		文章表現演習	1後		2								1	
読書技術演習		1・2前		2								1		
自然科学基礎演習		1前	2			1						0		
海外福祉研修		1・2・3・4		1		1						0		
小計(5科目)		-	2	2	7	2	0	0	0	0	0	3		
合計(43科目)	-	16	10	63	2	3	0	0	0	0	42			
教育科目	解剖学	1前	2			1								
	解剖学実習	1後	1			1			1					
	生理学	1前	2			1								
	生理学実習	1後	1			1			1					
	人体機能構造学演習	1前	1									1		
	運動学Ⅰ	1後	1			1								
	運動学Ⅱ	2前	1			1								
	運動学実習	2後	1			2								
	臨床心理学	2前	1									1		
	人間発達学	2後	1									1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	病理学	2前	1								2
	一般臨床医学	2前	1			1					
	内科学	2通	2			1					1
	整形外科	2通	2								1
	神経内科学	2通	2			1					
	精神医学	2前	1								1
	小児科学	2前	1			1					
	薬理学	2・3前	1								1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	1			1					
	チーム医療演習	3後	1					2			
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3前		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1								1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3前	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
	看護学	2・3後		1							1
	画像診断学	3前	1								3
小計(34科目)	—	32	5	10	16	0	2	0	0	24	
理学療法学・作業療法学	リスク管理学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1			1	1				
	エレメンタリーセミナー	1前	1			2	1	2			
	インターメディエイトセミナー	2前	1			1	1				
	リハビリテーション研究法	3前	1			1	1				
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1		1					
	アドバンスセミナー	3後	1			1	1	1			
	福祉工学	3後		1		1					
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1			1	1				
	医用画像特論	3後	1								1
	ステップアップ演習	3前		1		4					
	プロフェッショナルセミナー	4通	1			1			1		
	生活環境学	3後	1				1	1			
	プロフェッショナルスキル	4通	1					2			
小計(14科目)	—	11	3		10	6	8	4	0	2	
理学療法学専門科目	理学療法学概論	1前	1			1					
	高齢者理学療法学	3前	1				1				
	運動療法学	1後	1						1		
	運動療法学実習	2前	1				1				
	基礎理学療法学見学実習	2後	1			1		1			
	理学療法評価学Ⅰ	1後	1						1		
	理学療法評価学Ⅱ	2後	1				1				
	理学療法評価学実習Ⅰ	2前	1					1			
	理学療法評価学実習Ⅱ	3前	1					1			
	動作分析学	3前	1			1					
	運動器系疾患理学療法学	2後	1				1				
	運動器系疾患理学療法学実習	3前	1					1			
	成人中枢神経系疾患理学療法学	3前	2			1					
	成人中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1			1			1		
小児中枢神経系疾患理学療法学	3前	1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	病理学	2前	1								1
	一般臨床医学	2前	1			1					
	内科学	2通	2								1
	整形外科	2通	2								1
	神経内科学	2通	2			1					
	精神医学	2前	1								2
	小児科学	2前	1			1					1
	薬理学	2・3前	1								1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	1			1					
	チーム医療演習	3前	1					1	2		
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3後		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1								1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3後	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
	看護学	2・3前		1					1		
	画像診断学	3前	1								5
小計(34科目)	—	32	5	10	13	1	5	0	0	26	
理学療法学	リスク管理学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1			1	1				
	エレメンタリーセミナー	1前	1			2	1	1			
	インターメディエイトセミナー	2通	1			1	2	1			
	リハビリテーション研究法	3前	1			1	2				
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1		1					
	アドバンスセミナー	3後	1			6	3	3	4		
	福祉工学	3後		1			1				
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1			1					
	医用画像特論	3後	1			1	1		2		1
	ステップアップ演習	3前		1		4					
	プロフェッショナルセミナー	4通	1			1			1		
	生活環境学	3後	1					2			
	プロフェッショナルスキル	4通	1				1	1	2	2	
小計(14科目)	—	11	3		19	14	7	10	0	2	
理学療法学専門科目	理学療法学概論	1前	1			1					
	高齢者理学療法学	3後	1				1				
	運動療法学	1後	1						1		
	運動療法学実習	2前	1						1		
	基礎理学療法学見学実習	2前	1					1	2		
	理学療法評価学Ⅰ	1後	1						1		
	理学療法評価学Ⅱ	2後	1				1				
	理学療法評価学実習Ⅰ	2前	1						1		
	理学療法評価学実習Ⅱ	3前	1						1		
	動作分析学	3後	1			1					1
	運動器系疾患理学療法学	2後	1				1		1		
	運動器系疾患理学療法学実習	3前	1				1		1		
	成人中枢神経系疾患理学療法学	3前	2					1			
	成人中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1			1			1		
小児中枢神経系疾患理学療法学	3前	1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	小児中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1			1				1	
	内部障害系疾患理学療法学	3前	1			1			1		
	内部障害系疾患理学療法学実習	3後	1					1	1		
	物理療法学	2前	1			1			1		
	物理療法学実習	2後	1					1	1		
	日常生活活動学	2後	1					1			
	日常生活活動学実習	3前	1					1	1		
	スポーツ理学療法学	4前		1				1			
	高次脳機能障害学	3後		1							1
	地域理学療法学	3前	1					1			
	地域理学療法学実習	3前	1					1	1	1	
	地域理学療法学実習セミナー	3前	1					1			
	義肢学	3前	1			1			1		
	装具学	3後	1			1			1		
	理学療法評価学臨床実習	3後	5			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅰ	4前	6			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅱ	4後	6			2	1	2	3	1	
卒業研究	4通	4				5	2	2	3	1	
小計(33科目)	—	—	49	2		19	8	18	25	10	1
専門科目(理学療法学)小計(47科目)	—	—	60	4	5	29	14	26	29	10	3
専門教育科目(理学療法学)合計(81科目)	—	—	92	9	15	45	14	28	29	10	27
(理学療法学)合計(124科目)	—	—	108	19	76	47	17	28	29	10	72
卒業要件及び履修方法											
<p>I 卒業要件</p> <p>教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。)、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、理学療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。</p> <p>II 履修方法等</p> <p>1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。</p> <p>一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。</p> <p>二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。</p> <p>三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。</p> <p>四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。</p> <p>2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする</p> <p>一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。</p> <p>二 専門科目は、理学療法学専攻は、必修科目の計60単位のほか、選択科目の中から計4単位を修得し、合計64単位を修得する。</p> <p>3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。</p> <p>履修科目の登録の上限:1年次及び2年次 48単位(年間) 3年次 45単位(年間) 4年次 40単位(年間)</p>											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	小児中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1			1					
	内部障害系疾患理学療法学	3前	1			1			1		
	内部障害系疾患理学療法学実習	3後	1					1	1		
	物理療法学	2前	1			1			1		
	物理療法学実習	2後	1					1	1		
	日常生活活動学	2後	1					1			
	日常生活活動学実習	3前	1					1	1		
	スポーツ理学療法学	4前		1				1			
	高次脳機能障害学	3後		1							1
	地域理学療法学	3前	1					1			
	地域理学療法学実習	3前	1					1	1	2	
	地域理学療法学実習セミナー	3前	1					1		1	
	義肢学	3前	1			1			1		
	装具学	3後	1			1			1		
	理学療法評価学臨床実習	3後	5			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅰ	4前	6			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅱ	4後	6			2	1	2	3	1	
卒業研究	4通	4				5	2	2	3	1	
小計(33科目)	—	—	49	2		21	11	6	29	3	2
専門科目(理学療法学)小計(47科目)	—	—	60	4	5	40	25	13	39	3	4
専門教育科目(理学療法学)合計(81科目)	—	—	92	9	15	53	26	18	39	3	30
(理学療法学)合計(124科目)	—	—	108	19	78	55	29	18	39	3	72
卒業要件及び履修方法											
<p>I 卒業要件</p> <p>教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。)、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、理学療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。</p> <p>II 履修方法等</p> <p>1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。</p> <p>一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。</p> <p>二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。</p> <p>三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。</p> <p>四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。</p> <p>2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする</p> <p>一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。</p> <p>二 専門科目は、理学療法学専攻は、必修科目の計60単位のほか、選択科目の中から計4単位を修得し、合計64単位を修得する。</p> <p>3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。</p> <p>履修科目の登録の上限:1年次及び2年次 48単位(年間) 3年次 45単位(年間) 4年次 40単位(年間)</p>											

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養 教育科目	人間と道徳	1前	2								1	
	哲学入門	1・2後	2								1	
	倫理学入門	1・2後	2								1	
	心理学	1・2前	2								1	
	教育学入門	1・2前	2								1	
	文学の世界	1・2前	2								1	
	音楽の世界	1・2後	2								1	
	歴史学	1・2前	2								1	
	法学入門	1・2後	2								1	
	日本国憲法	1前	2								1	
	政治学	1・2前	2								1	
	経済学入門	1・2前	2								1	
	社会学入門	1・2前	2								1	
	基礎物理学	1・2前	2								1	
	基礎化学	1・2前	2								1	
	基礎生物学	1・2前	2								1	
	統計学入門	1・2後	2								1	
	人間関係論	1・2前	2								1	
	国際関係論	1・2後	2								1	
	コミュニケーション論	1・2後	2								1	
	環境科学	1・2後	2								1	
	障害インクルージョン論	1・2後	2								1	
	小計(22科目)	-	10	4	34	0	0	0	0	0	0	22
	体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後		1							1
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後		2							1
		スポーツ健康科学基礎理論	1後		1							1
		体育実技A	1・2前		1							1
		体育実技B	1・2前		1							1
		体育実技C	1・2後		1							1
		体育実技D	1・2前		1							1
	小計(7科目)	-	0	2	8	0	0	0	0	0	0	7
	国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2			1					2
		英語Ⅱ	1後	2			1					2
		英会話	1・2前・後		2							1
		実践英語	1・2後		2		1					0
		中国語入門	1・2前		2							1
		フランス語入門	1・2前		2							1
		ドイツ語入門	1・2後		2							1
	小計(7科目)	-	4	2	10	0	3	0	0	0	0	8
	基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後		2							1
		文章表現演習	1後		2							1
読書技術演習		1・2前		2							1	
自然科学基礎演習		1前	2			1					0	
海外福祉研修		1・2・3・4後		1		1					0	
小計(5科目)	-	2	2	7	2	0	0	0	0	0	3	
合計(41科目)	-	16	10	69	2	3	0	0	0	0	40	
医学	解剖学	1前	2			1						
	解剖学実習	1後	1			1		1				
	生理学	1前	2			1						
	生理学実習	1後	1			1		2				
	人体機能構造学演習	1前	1								1	
	運動学Ⅰ	1後	1			1						
	運動学Ⅱ	2前	1			1						
	運動学実習	2後	1			2						
	臨床心理学	2前	1								1	
	人間発達学	2後	1								1	
	病理学	2前	1								1	
	一般臨床医学	2前	1			1						
	内科学	2通	2								1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養 教育科目	人間と道徳	1前	2								1	
	哲学入門	1・2後	2								1	
	倫理学入門	1・2後	2								1	
	心理学	1・2前	2								1	
	教育学入門	1・2前	2								1	
	文学の世界	1・2前	2								1	
	音楽の世界	1・2後	2								1	
	歴史学	1・2前	2								1	
	法学入門	1・2後	2								1	
	日本国憲法	1前	2								1	
	政治学	1・2前	2								1	
	経済学入門	1・2前	2								1	
	社会学入門	1・2前	2								1	
	基礎物理学	1・2前	2								1	
	基礎化学	1・2前	2								1	
	基礎生物学	1・2前	2								1	
	統計学入門	1・2後	2								1	
	人間関係論	1・2前	2								1	
	国際関係論	1・2後	2								1	
	コミュニケーション論	1・2後	2								1	
	環境科学	1・2後	2								1	
	障害インクルージョン論	1・2後	2								1	
	小計(22科目)	-	10	4	34	0	0	0	0	0	0	22
	体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後		1							1
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後		2							1
		スポーツ健康科学基礎理論	1後		1							1
		体育(ソフトボール)	1・2前		1							1
		体育(バドミントン)	1・2後		1							2
		体育(テニス)	1・2前		1							1
		体育(弓道)	1・2前		1							1
		体育(ダンス)	1・2後		1							1
		体育(水泳)	1・2前		1							2
	小計(9科目)	-	0	2	10	0	0	0	0	0	0	11
	国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2			1					2
		英語Ⅱ	1後	2			1					2
		英会話	1・2前・後		2							1
		実践英語	1・2後		2		1					0
		中国語入門	1・2前		2							1
		フランス語入門	1・2前		2							1
		ドイツ語入門	1・2後		2							1
	小計(7科目)	-	4	2	10	0	3	0	0	0	0	8
基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後		2							1	
	文章表現演習	1前		2							2	
	読書技術演習	1・2前・後		2							2	
	自然科学基礎演習	1前	2			1					0	
	海外福祉研修	1・2・3・4		1		1					0	
小計(5科目)	-	2	2	7	2	0	0	0	1	0	5	
合計(43科目)	-	16	10	61	2	3	0	1	0	0	46	
医学	解剖学	1前	2			1						
	解剖学実習	1後	1			1		1				
	生理学	1前	2			1						
	生理学実習	1後	1			1		1	1			
	人体機能構造学演習	1前	1								1	
	運動学Ⅰ	1後	1			1						
	運動学Ⅱ	2前	1			1		2				
	運動学実習	2後	1			2						
	臨床心理学	2前	1								1	
	人間発達学	2後	1								1	
	病理学	2前	1								2	
	一般臨床医学	2前	1			1						
	内科学	2通	2								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	整形外科学	2通	2								1
	神経内科学	2通	2			1					
	精神医学	2前	1								1
	小児科学	2前	1			1					1
	薬理学	2・3前	1							1	1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	1			1					
	チーム医療演習	3後	1					2			
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3前		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1							1	1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3前	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
	看護学	2・3前		1							1
画像診断学	3前	1								3	
小計(34科目)	—	32	5	10		13	0	5	0	0	24
理学療法・作業療法	リスク管理学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1			1		1			
	エレメンタリーセミナー	1前	1			1		2	1		
	インターメディアエイトセミナー	2通	1				1	1			
	リハビリテーション研究法	3前	1				1	1			
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1			1				
	アドバンスセミナー	3後	1				2	1	2	3	
	福祉工学	3後		1				1			
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1				1	1			
	医用画像特論	3後	1								1
	ステップアップ演習	3前		1			4				
	プロフェッショナルセミナー	4通	1				1			1	
	生活環境学	3後	1					1	1		
	プロフェッショナルスキル	4通	1				1	1	2	2	
小計(14科目)	—	11		3		11	8	10	7	0	2
理学療法学専門科目	理学療法学概論	1前	1			1					
	高齢者理学療法学	3前	1					1			
	運動療法学	1後	1						1		
	運動療法学実習	2前	1					1			
	基礎理学療法学見学実習	2前	1				1				
	理学療法評価学Ⅰ	1後	1							1	
	理学療法評価学Ⅱ	2後	1				1				
	理学療法評価学実習Ⅰ	2前	1							1	
	理学療法評価学実習Ⅱ	3前	1							1	
	動作分析学	3前	1				1				
	運動器系疾患理学療法学	2後	1				1			1	
	運動器系疾患理学療法学実習	3前	1							1	
	成人中枢神経系疾患理学療法学	3前	2					1			
	成人中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1					1			1
小児中枢神経系疾患理学療法学	3前	1				1					
小児中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1				1				1	
内部障害系疾患理学療法学	3前	1				1			1		
内部障害系疾患理学療法学実習	3後	1							1	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	整形外科学	2通	2								1
	神経内科学	2通	2				1				
	精神医学	2前	1								1
	小児科学	2前	1				1				
	薬理学	2・3前	1								1
	リハビリテーション概論	1前	1				1				
	リハビリテーション医学	2後	1				1				
	チーム医療演習	3後	1						2		
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3前		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1								1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3前	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
	看護学	2・3前		1							1
画像診断学	3前	1								3	
小計(34科目)	—	32	5	10		15	0	4	1	0	24
理学療法学専門科目	リスク管理学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1				1		1		
	エレメンタリーセミナー	1前	1				1		1	3	
	インターメディアエイトセミナー	2前	1					1	1		
	リハビリテーション研究法	3前	1					1	1		
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1				1			
	アドバンスセミナー	3後	1				2	1	2	3	
	福祉工学	3後		1				1			
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1				1	1			
	医用画像特論	3後	1								1
	ステップアップ演習	3前		1			4				
	プロフェッショナルセミナー	4通	1				1			1	
	生活環境学	3後	1					1	1		
	プロフェッショナルスキル	4通	1					1	1	2	2
小計(14科目)	—	11		3		11	8	9	9	0	2
理学療法学専門科目	理学療法学概論	1前	1				1				
	高齢者理学療法学	3前	1						1		
	運動療法学	1後	1							1	
	運動療法学実習	2前	1						1		
	基礎理学療法学見学実習	2後	1					1	1		3
	理学療法評価学Ⅰ	1後	1								1
	理学療法評価学Ⅱ	2後	1							1	
	理学療法評価学実習Ⅰ	2前	1								1
	理学療法評価学実習Ⅱ	3前	1								1
	動作分析学	3前	1					1			
	運動器系疾患理学療法学	2後	1								1
	運動器系疾患理学療法学実習	3前	1								1
	成人中枢神経系疾患理学療法学	3前	2						1		
	成人中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1						1		1
小児中枢神経系疾患理学療法学	3前	1					1				
小児中枢神経系疾患理学療法学実習	3後	1					1			1	
内部障害系疾患理学療法学	3前	1					1			1	
内部障害系疾患理学療法学実習	3後	1							1	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	物理療法学	2前	1						1		
	物理療法学実習	2後	1						1		
	日常生活活動学	2後	1				1				
	日常生活活動学実習	3前	1					1		1	
	スポーツ理学療法学	4前		1					1		
	高次脳機能障害学	3後		1							1
	地域理学療法学	3前	1					1			
	地域理学療法学実習	3前	1			1	1		3	1	
	地域理学療法学実習セミナー	3前	1					1	1		
	義肢学	3前	1			1			1		
	装具学	3後	1			1			1		
	理学療法評価学臨床実習	3後	5			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅰ	4前	6			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅱ	4後	6			2	1	2	3	1	
	卒業研究	4通	4			5	2	2	3	1	
小計(33科目)	—	49	2		21	10	14	28	9	1	
専門科目(理学療法学)小計(47科目)	—	60	4	5	32	18	24	35	9	3	
専門教育科目(理学療法学)合計(81科目)	—	92	9	15	45	18	29	35	9	27	
(理学療法学)合計(124科目)	—	108	19	74	47	21	29	35	9	67	

卒業要件及び履修方法

I 卒業要件
 教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。)、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、理学療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。

II 履修方法等
 1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。
 一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。
 二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。
 三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。
 四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。

2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする
 一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。
 二 専門科目は、理学療法学専攻は、必修科目の計60単位のほか、選択科目の中から計4単位を修得し、合計64単位を修得する。

3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。
 履修科目の登録の上限:1年次及び2年次 48単位(年間)
 3年次 45単位(年間)
 4年次 40単位(年間)

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	物理療法学	2前	1					1		1	
	物理療法学実習	2後	1						1	1	
	日常生活活動学	2後	1						1		
	日常生活活動学実習	3前	1					1		1	
	スポーツ理学療法学	4前		1					1		
	高次脳機能障害学	3後		1							1
	地域理学療法学	3前	1					1			
	地域理学療法学実習	3前	1			1	1		3	1	
	地域理学療法学実習セミナー	3前	1					1	1		
	義肢学	3前	1			1			1		
	装具学	3後	1			1			1		
	理学療法評価学臨床実習	3後	5			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅰ	4前	6			2	1	2	3	1	
	総合臨床実習Ⅱ	4後	6			2	1	2	3	1	
	卒業研究	4通	4			5	2	2	3	1	
小計(33科目)	—	49	2		21	9	16	31	10	1	
専門科目(理学療法学)小計(47科目)	—	60	4	5	32	17	25	40	10	3	
専門教育科目(理学療法学)合計(81科目)	—	92	9	15	47	17	29	41	10	27	
(理学療法学)合計(124科目)	—	108	19	76	49	20	29	42	10	73	

卒業要件及び履修方法

I 卒業要件
 教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。)、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、理学療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。

II 履修方法等
 1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。
 一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。
 二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。
 三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。
 四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。

2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする
 一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。
 二 専門科目は、理学療法学専攻は、必修科目の計60単位のほか、選択科目の中から計4単位を修得し、合計64単位を修得する。

3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。
 履修科目の登録の上限:1年次及び2年次 48単位(年間)
 3年次 45単位(年間)
 4年次 40単位(年間)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・指導体制の見直しにより、「体育(バドミントン)」の兼任・兼任教員の配置を「兼任・兼任教員1」から「兼任・兼任教員2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「英語Ⅱ」の専任教員等配置を「准教授1」「兼任・兼任教員1」から「准教授1」「兼任・兼任教員2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「実践英語」の専任教員等配置を「准教授1」「兼任・兼任教員1」から「准教授1」「兼任・兼任教員0」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「自然科学基礎演習」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「解剖学実習」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「生理学実習」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「講師1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動学Ⅰ」の専任教員の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「エレメンタリーセミナー」の専任教員の配置を「教授2」「講師1」「助教2」から「教授1」「講師1」「助教3」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「アドバンスセミナー」の専任教員の配置を「教授1」「講師1」「助教1」から「教授2」「准教授1」「講師2」「助教3」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「プロフェッショナルスキル」の専任教員の配置を「講師2」から「教授1」「准教授1」「講師2」「助教2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動療法学」の専任教員の配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「基礎理学療法学見学実習」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「教授1」「准教授1」「助教3」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「運動器系疾患理学療法学」の専任教員の配置を「講師1」から「助教1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「スポーツ理学療法学」の専任教員の配置を「講師1」から「助教1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「地域理学療法学実習」の専任教員の配置を「講師1」「助教1」「助手1」から「教授1」「准教授1」「助教3」「助手1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「地域理学療法学実習セミナー」の専任教員の配置を「講師1」から「講師1」「助教1」に変更。

【令和3年度】

- ・教育課程の充実を図るため、「体育(ソフトボール)」「体育(バドミントン)」「体育(テニス)」「体育(弓道)」「体育(ダンス)」「体育(水泳)」を廃止し、「体育実技A」「体育実技B」「体育実技C」「体育実技D」を新設した。専任教員等の配置は、それぞれ「兼任・兼任2」とした。
- ・指導体制の見直しにより、「文章表現演習」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「読書技術演習」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「自然科学基礎演習」の専任教員等の配置を「教授1」「助教1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任人事により、「生理学実習」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」「助教1」から「教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動学Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「病理学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「内科学」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任・兼任1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「小児科学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「薬理学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「助手1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「チーム医療演習」の専任教員等の配置を「講師2」から「准教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「救命救急医学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「助手1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直し・担当教員の昇任人事により、「エレメンタリーセミナー」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」「助教3」から「教授1」「講師2」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「基礎理学療法学見学実習」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「理学療法評価学Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師1」から「教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動器系疾患理学療法学」の専任教員等の配置を「助教1」から「教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「成人中枢神経系疾患理学療法学実習」の専任教員等の配置を「准教授1」「助手1」から「准教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「物理療法学」の専任教員等の配置を「教授1」「助教1」から「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「物理療法学実習」の専任教員等の配置を「助教1」「助手1」から「助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任人事により、「日常生活活動学」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。

【令和4年度】

- ・教育課程の充実を図るため、「行動科学入門」「データサイエンス入門」を新設し、それぞれ「兼任1」を配置した。
- ・学生の履修意欲を高めるため、授業科目の名称を「基礎生物学」から「バイオリテラシー入門」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「理学実習」の専任教員等の配置を「教授1」「講師2」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「精神医学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「チーム医療演習」の専任教員等の配置を「講師2」から「准教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「看護学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「画像診断学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「エレメンタリーセミナー」の専任教員等の配置を「教授1」「講師2」「助教1」から「教授2」「准教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「インターメディアイトセミナー」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」から「教授1」「准教授2」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「リハビリテーション研究法」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」から「教授1」「准教授2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「アドバンスセミナー」の専任教員等の配置を「教授2」から「准教授1」「講師2」「助教3」から「教授6」「准教授3」「講師3」「助教4」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「医用画像特論」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」「准教授1」「助教2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「生活環境学」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」から「准教授2」に変更。
- ・担当教員の昇任人事により、「高齢者理学療法学」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動療法学」の専任教員等の配置を「講師1」から「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動療法学実習」の専任教員等の配置を「講師1」から「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「基礎理学療法学見学実習」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1」「助教2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「動作分析学」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動器系疾患理学療法学実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「内部障害系疾患理学療法学実習」の専任教員等の配置を「助教1」「助手1」から「教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「日常生活活動学実習」の専任教員等の配置を「講師1」「助手1」から「准教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「地域理学療法学」の専任教員等の配置を「講師1」から「教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「地域理学療法学実習」の専任教員等の配置を「教授1」「助教3」から「教授1」「助教2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「地域理学療法学実習セミナー」の専任教員等の配置を「講師1」「助教1」から「教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「義肢学」の専任教員等の配置を「教授1」「助教1」から「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「装具学」の専任教員等の配置を「教授1」「助教1」から「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「理学療法評価学臨床実習」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授1」「講師2」「助教3」「助手1」から「教授1」「准教授1」「助教1」に変更。

(注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77 科目	47 科目	科目	124 科目	77 科目 [—]	47 科目 [—]	科目 [—]	124 科目 [—]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は，「一般・専門」を「基礎，展開，職業専門，総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	体育（ソフトボール）	1	1・2	一般	選択	体育の実技種目に対応した科目名となっていることから，各科目においてさまざまな実技種目を取り扱えるよう科目の見直しを行ったため。 後継科目として「体育実技A～D」のように，特定の実技種目に限定されない科目名として新設した。
2	体育（バドミントン）	1	1・2	一般	選択	
3	体育（テニス）	1	1・2	一般	選択	
4	体育（弓道）	1	1・2	一般	選択	
5	体育（ダンス）	1	1・2	一般	選択	
6	体育（水泳）	1	1・2	一般	選択	

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は，「一般・専門」を「基礎，展開，職業専門，総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

変更前は，学生は学期を通じて同じ実技種目に取り組む必要があったが，変更後は，さまざまな実技種目を取り扱うことが可能になるため，学生の多様な体育実技に関するニーズにより適切に対応できるようになった。適用となる令和3年度入学生には，『履修要項』及びガイダンス，履修指導等により周知している。
なお，当該科目は履修年次が「1・2年次」となっているため，令和2年度入学生には，旧科目を開講している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見，学生への周知方法，今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{6}{124} = \boxed{4.83}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	植草学園短期大学 2,350 (必要面積 2,800 ㎡) と共用 200 (収容定員:280人) 短大の専攻廃止に伴う 収容定員減による 変更(3) 〔借用地〕 運動場 991 1,441 1,880 借用面積:2,758㎡ 借用期間:450㎡(次 年度購入予定の ため期間なし)991㎡ (令和11年3月31日ま で) 購入による借用地の 変更(2)(3)(4)		
	校舎敷地	5,010 ㎡	7,058 ㎡	0 ㎡	12,068 ㎡			
	運動場用地	0 ㎡	18,758 ㎡	0 ㎡	18,758 ㎡			
	小 計	5,010 ㎡	25,816 ㎡	0 ㎡	30,826 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	39,064 ㎡	0 ㎡	39,064 ㎡			
合 計	5,010 ㎡	64,880 ㎡	0 ㎡	69,890 ㎡				
(2) 校 舎		専 用 11724.59㎡ 11,712.50 ㎡ (11,712.50 ㎡)	共 用 3,196.50 ㎡ (3,196.50 ㎡)	共用する他の 学校等の専用 3,945.22 ㎡ (3,945.22 ㎡)	計 18,866.31㎡ 18,854.22 ㎡ (18,854.22 ㎡)	植草学園短期大学 1,550 (必要面積 2,350 ㎡) と共用 200 (収容定員:280人)		
(3) 教 室 等		講 義 室 26室	演 習 室 30室	実験実習室 16室	情報処理学習施設 1室 (補助職員 0人)	語学学習施設 1室 (補助職員 0人)	大学全体 語学学習室は、情報 処理学習施設と兼ね る。	
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 保健医療学部 リハビリテーション学科		室 数 21 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数 教育の充実のため追 加して購入した(2) (3)(4)
	保健医療学部 リハビリテー ション学科	56,329 [1,496] 55,826[1,471] 56,214 [1,700] 55,200[1,700] (56,329 [1,496]) (55,826 [1,471]) (56,812 [1,463]) (53,900[1,600])	567 [47] 542[50] 587 [52] 380[10] (567 [47]) (542 [50]) (571 [52]) (360[10])	26,086 [24,400] 29,220[28,313] 25,230 [23,735] 20,834[19,500] (26,086 [24,400]) (29,220 [28,313]) (25,230 [23,735]) (20,834[19,500])	2,224 2,182 2,150 (2,224) (2,168) (2,140)	300 300 (300)	53 53 (53)	
(6) 図 書 館		面 積 1,076.86 ㎡	閱 覧 座 席 数 248	収 納 可 能 冊 数 57,000				
(7) 体 育 館		面 積 940.21 ㎡	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要 フットサルコート 3on3コート					
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度	
	教員1人当り研究費等	390千円	390千円	図書購入費	11,600千円	9,700千円	10,200千円	
	共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	58,000千円	35,000千円	5,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,870千円	第2年次 1,600千円	第3年次 1,600千円	第4年次 1,600千円	第5年次 -千円	第6年次 -千円	
学生納付金以外の維持方法の概要 私立大学等経常経費補助金、雑収入等								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は△対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		植草学園大学					学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
発達教育学部	4	140	-	560				-	平成20	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3	
発達支援教育学科	4	140	-	560	学士(教育学)	0.75	0.60	-	平成20	同上	
保健医療学部	4	80	-	320				-	平成20	同上	定員変更(40)
理学療法学科	4	-	-	-	学士(理学療法)	-	-	-	平成20	同上	令和2年募集停止
リハビリテーション学科	4	80	-	320				-	令和2	同上	
理学療法専攻	4	40	-	160	学士(理学療法)	1.11	1.10	-	令和2	同上	
作業療法専攻	4	40	-	160	学士(作業療法)	0.68	0.50	-	令和2	同上	
大学全体	-	220	-	880	-	-	-	-	-	-	

大学の名称		植草学園短期大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
こども未来学科	2	100	-	200	短期大学士(児童福祉)	0.73	0.57		平成11年度	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3	学科名称変更
大学全体	-	100	-	200	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・上倉将太講師の就任辞退により、後任に福士勇人講師を追加。(運動療法学実習、理学療法評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、卒業研究)
- ・水江年城教授の担当科目を追加。(アドバンストセミナー)
- ・三浦達浩教授の担当科目(運動学Ⅰ)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル、基礎理学療法学見学実習、地域理学療法学実習)
- ・倉山太一准教授の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル、地域理学療法学実習)
- ・角正美講師の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル)
- ・松岡瑞雄助教の担当科目を追加。(自然科学基礎演習、エレメンタリーセミナー、プロフェッショナルスキル、基礎理学療法学見学実習、地域理学療法学実習、地域理学療法学実習セミナー)
- ・千葉諭助教の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル、基礎理学療法学見学実習、スポーツ理学療法学、地域理学療法学実習)
- ・植草泰憲助教の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、運動器系疾患理学療法学)
- ・鷺田孝保兼担教授の就任辞退により、担当科目を削除。(エレメンタリーセミナー)
- ・高野良子兼担教授辞退により、小野まどか兼担講師に変更。(教育学入門)
- ・長谷川修治兼担教授の担当科目を削除。(実践英語)共同担当教員がいるため支障はない。
- ・村上悦子兼担講師が、兼担教授に昇任。
- ・指導体制見直しにより、大塚栄子兼担講師の担当科目を追加。(解剖学実習)
- ・指導体制見直しにより、館岡周平兼担助教の担当科目を追加。(生理学実習)
- ・野澤和弘兼担講師が、令和2年度より発達教育学部教授として就任したため、兼担教授に昇任。担当科目を追加。(文章表現演習)
- ・岡田聡志兼担講師辞退により、松本暢平兼担講師に変更。(統計学入門)
- ・教育課程充実の理由により、青柳篤兼担講師を追加。(体育(バドミントン))
- ・西山友貴兼担講師辞退により、鈴木瑛貴兼担講師に変更。(体育(ダンス))
- ・指導体制見直しにより、大塚孝一兼担講師を追加。(英語Ⅱ)
- ・陳玉莉兼担講師辞退により、劉心苗兼担講師に変更。(中国語入門)
- ・芦野眞理子兼担講師辞退、他に担当教員がいるため支障はない。(文章表現演習、読書技術演習)
- ・原真太郎兼担講師辞退により、池田寛人兼担講師に変更。(臨床心理学)
- ・出雲春明兼担講師辞退により、高石憲明兼担講師に変更。(生命倫理学)
- ・武島玲子兼担講師辞退により、大賀優兼担講師に変更。(リスク管理学)

【令和3年度】

- ・水江年城教授の担当科目を追加。(理学療法評価学Ⅱ、内部障害系疾患理学療法学実習、地域理学療法学)
- ・山本雅哉教授が作業療法学専攻に異動となるため、兼担教授に変更。
- ・前田仁士教授の担当科目を削除。(内科学)
- ・三浦達浩教授の担当科目(動作分析学、アドバンストセミナー、基礎理学療法学見学実習、地域理学療法学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(運動器系疾患理学療法学、運動器系疾患理学療法学実習)
- ・倉山太一准教授の担当科目(基礎理学療法学見学実習、インターメディアイトセミナー、地域理学療法学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(チーム医療演習)
- ・角正美講師が准教授に昇任。担当科目(チーム医療演習、理学療法評価学Ⅱ、地域理学療法学)を削除及び追加。(インターメディアイトセミナー、基礎理学療法学見学実習)
- ・松岡瑞雄助教の担当科目(自然科学基礎演習、エレメンタリーセミナー、基礎理学療法学見学実習)を削除及び追加。(義肢学・装具学)
- ・千葉諭助教の担当科目(基礎理学療法学見学実習、地域理学療法学実習)を削除。
- ・植草泰憲助教の担当科目(基礎理学療法学見学実習、地域理学療法学実習)を削除及び追加。(プロフェッショナルセミナー)
- ・福士勇人講師の担当科目を追加。(自然科学基礎演習、プロフェッショナルセミナー)
- ・安藤剛夫兼担教授退職により、足立英彦兼担教授に変更。(心理学、人間関係論、人間発達学、コミュニケーション論)
- ・川端真由美兼担講師退職により、岡部裕美兼担講師に変更。(音楽の世界)
- ・池田森敏兼担教授の担当科目(運動学Ⅱ)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(プロフェッショナルスキル)
- ・川口由起子兼担教授が、兼担教授に昇任。
- ・遠藤隆志兼担教授の担当科目(体育(バドミントン)、体育(水泳))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技C、体育実技D)
- ・鈴木瑛貴兼担講師の担当科目(体育(ダンス))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技C)
- ・野澤和弘兼担教授の担当科目を追加。(社会福祉学)
- ・館岡周平兼担助教が兼担講師に昇任。
- ・高橋文紀兼担講師辞退により、李雨テイ兼担講師に変更。(経済学入門)
- ・吉澤樹理兼担講師辞退により、泉賢太郎兼担講師に変更。(環境科学)
- ・中島亮一兼担講師の担当科目(体育(ソフトボール))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技A、体育実技B)
- ・馬場宏輝兼担講師の担当科目(体育(水泳))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技D)
- ・有富桂子兼担講師の担当科目(薬理学)を削除及び追加。(生化学)なお薬理学は、村山俊彦兼担講師に変更。
- ・勝呂徹兼担講師辞退により、渡辺敦也兼担講師に変更。(整形外科)
- ・林幸子兼担講師辞退により、川上裕子兼担講師に変更。(看護学)

【令和4年度】

- ・桑名俊一教授の担当科目を追加。(リハビリテーション研究法)
- ・水江年城教授の担当科目(義肢学、装具学)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(地域理学療法学実習、地域理学療法学実習セミナー)
- ・三浦達浩教授の担当科目(理学療法評価学臨床実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、医用画像特論)
- ・倉山太一准教授の担当科目(リハビリテーションとロボットテクノロジー)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(基礎理学療法学見学実習、インターメディアイトセミナー、医用画像特論)
- ・角正美准教授の担当科目(理学療法評価学臨床実習、基礎理学療法学見学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)
- ・松岡瑞雄助教の担当科目を追加。(医用画像特論)
- ・千葉諭助教の担当科目(理学療法評価学臨床実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(医用画像特論)
- ・植草泰憲助教の担当科目(理学療法評価学臨床実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(基礎理学療法学見学実習)
- ・福士勇人講師退職により、後任に窪谷珠江助教(助手から昇任)を追加(地域理学療法学実習、基礎理学療法学見学実習、運動療法学、運動療法学実習、アドバンストセミナー)及び菅原仁兼担講師に変更。(動作分析学)その他担当科目は、共同担当教員がいるため支障はない。(生理学実習、地域理学療法学実習セミナー、理学療法評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、卒業研究、自然科学基礎演習、プロフェッショナルセミナー)
- ・小西美ゆき講師(チーム医療演習、看護学)を採用。
- ・戸丸俊文兼担教授退職により、横田純一郎兼担教授に変更。(読書技術演習)
- ・早川雅晴兼担教授の担当科目名称を変更。(基礎生物学→バイオリテラシー入門)
- ・遠藤隆志兼担教授の担当科目を追加。(体育実技A、体育実技B)
- ・指導体制見直しにより、千田直人兼担教授の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、エレメンタリーセミナー)
- ・指導体制見直しにより、大塚栄子兼担講師の担当科目(エレメンタリーセミナー、解剖学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー)
- ・指導体制見直しにより、大平雅弘兼担講師の担当科目(プロフェッショナルスキル)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、解剖学実習)
- ・指導体制見直しにより、館岡周平兼担講師の担当科目(エレメンタリーセミナー)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー)
- ・科目の新設のため、足立英彦兼担教授の科目を担当科目を追加。(行動科学入門)
- ・指導体制見直しにより、山崎寿子兼担教授を追加。(アドバンストセミナー)
- ・指導体制見直しにより、福山英明兼担教授を追加。(アドバンストセミナー、インターメディアイトセミナー)
- ・指導体制見直しにより、百田貴洋兼担教授を追加。(アドバンストセミナー、エレメンタリーセミナー)
- ・小野まどか兼担講師産休・育休取得により、轟晶兼担講師に変更。(教育学入門)
- ・カレンベルクベレナ兼担講師辞退により、パールケルードウィッチ兼担講師に変更。(ドイツ語入門)
- ・滝口恭利兼担講師辞退により、松本良二兼担講師に変更。(内科学)
- ・我妻敏博兼担講師辞退により、國井光男兼担講師に変更。(特別支援教育概論)
- ・阿部慎司兼担講師、石森佳幸兼担講師辞退により、須田匡也兼担講師、中島梨栄華兼担講師、園田優兼担講師、安江憲治兼担講師に変更。(画像診断学)
- ・池田寛人兼担講師辞退により、宮澤洋子兼担講師に変更。(臨床心理学)
- ・川上裕子兼担講師辞退により、小西美ゆき講師に変更。(看護学)
- ・指導体制見直しにより、澤谷篤兼担講師を追加。(精神医学)
- ・大賀優兼担講師の担当科目を削除。(リスク管理学)共同担当教員のほか、長谷川大悟兼担講師を追加。
- ・宮崎泰兼担講師辞退により、三浦達浩教授、倉山太一准教授、松岡瑞雄助教、千葉諭助教、伊藤正明兼担講師に変更。(医用画像特論)

- (注) ・ 変更内容を簡易書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 認めて設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A/C教員審査)を受けてください。**A/C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(A/C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
9	3	4	4	20	2	9	4	4	4	21	1
(8)	(3)	(3)	(4)	(18)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
9	4	4	4	21	1	9	4	4	4	21	1
[—]	[1]	[—]	[—]	[1]	[Δ1]	[—]	[1]	[—]	[—]	[1]	[Δ1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

- ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授67 准教授以下65 歳	2 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{20} = \boxed{105} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{21} = \boxed{9.52} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{2} = \boxed{50} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	上倉 将太	R2.3	必修	運動療法学実習	①	R2.3月自己都合による退職のため就任辞退(2)						
				必修	アドバンストセミナー	①							
				必修	運動器系疾患理学療法学	①							
				必修	スポーツ理学療法学	①							
				必修	地域理学療法実習	①							
				必修	地域理学療法実習セミナー	①							
				必修	プロフェッショナルスキル	①							
				必修	理学療法評価学臨床実習	①							
				必修	総合臨床実習Ⅰ	①							
				必修	総合臨床実習Ⅱ	①							
				必修	卒業研究	①							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	11	科目	必修	11	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	11	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	講師	福士 勇人	R4.3	必修	自然科学基礎演習	①	R4.3月自己都合による退職のため就任辞退(4)						
				必修	生理学実習	①							
				必修	アドバンストセミナー	①							
				必修	プロフェッショナルセミナー	①							
				必修	運動療法学	①							
				必修	運動療法学実習	①							
				必修	動作分析学	②							
				必修	地域理学療法実習セミナー	①							
				必修	理学療法評価学臨床実習	①							
				必修	総合臨床実習Ⅰ	①							
				必修	総合臨床実習Ⅱ	①							
必修	卒業研究	①											
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	12	科目	必修	11	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	11	科目	計	1	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)				後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
2	人	必修	23 科目	必修	22 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	23 科目	計	22 科目	計	1 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{2}{20} = \boxed{10} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和2年度に就任予定であった専任教員(上倉将太講師)について、自己都合による退職によりやむをえず就任辞退となったが、後任として専任教員(福士勇人講師)を採用、配置するとともに、担当予定科目を学科内で分担変更することにより、学生の履修に不利益がないよう配慮を行っている。令和2年度入学生に対しては、年度初めのガイダンスにより専任教員の配置及び授業担当者に関する周知を図った。

令和2年度に就任した専任教員(福士勇人講師)について、令和4年3月末に自己都合による退職となったため、担当科目を学科内で分担変更することにより、学生の履修に不利益がないよう配慮を行うとともに、助手から昇任した専任教員(窪谷珠江助教)を配置した。令和4年度入学生に対しては、年度初めのガイダンスにより専任教員の配置及び授業担当者に関する周知を図った。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 ・設置の趣旨等を記載した書類Ⅴ教員組織の編成の考え方及び特色「4.採用計画」に記載したとおり、新設の作業療法学専攻の運営を軌道に乗せるため、本学定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めている。	履行中 ・学校法人植草学園教員配置会議において、長期的視野に基づき教員の補充等について検討している。定年規程を超える教員は、新設の作業療法学専攻の運営を軌道に乗せるために必要な人材であると考えている。完成年度前に定年を迎える教員については、後に同分野を担当できる教員に引き継ぎ、教育研究の継続性を確保する。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>植草学園大学学則第38条第2項の規定に基づき、植草学園大学におけるファカルティ・ディベロップメントについて必要な事項を定めることを目的として、「植草学園大学ファカルティディベロップメントに関する規定」を設けている。この規程に基づき「FD委員会」を設置している。</p> <p>植草学園大学・植草学園短期大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程</p> <p style="text-align: center;">〔制 定 令和2年4月1日〕</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 この規程は、植草学園大学学則第38条第2項の規定及び植草学園短期大学学則第28条の2第2項の規定に基づき、植草学園大学及び植草学園短期大学（以下「大学及び短期大学」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。</p> <p>(教育方法等改善のための組織的取組)</p> <p>第2条 大学及び短期大学は、建学の精神並びに教育理念及び教育目標に基づき、教員が主体的に行う教育方法等の改善に資することを目的として教育方法の研究、工夫を積極的に推進するために、次の各号に掲げる事項に組織的に取り組むものとする。</p> <p>一 授業評価に関する事項</p> <p>二 新任教員研修に関する事項</p> <p>三 講演会・シンポジウム等の開催に関する事項</p> <p>四 教員の教授活動相互研鑽に関する事項</p> <p>五 教育効果を上げるための教授法改善、シラバスの工夫、成績評価、教材開発等に関する事項</p> <p>六 広報活動に関する事項</p> <p>七 その他教育方法等の改善に関する事項</p> <p>(FD委員会の設置)</p> <p>第3条 前条に規定する事項について審議・検討を行うため、FD委員会を置く。</p> <p>(FD委員会の組織)</p> <p>第4条 FD委員会は、次の者をもって組織する。</p> <p>一 大学及び短期大学の学長</p> <p>二 大学及び短期大学の副学長</p> <p>三 大学の各学部長</p> <p>四 短期大学学科長</p> <p>五 大学学科主任</p> <p>六 大学の各学部から選出された教授各1名</p> <p>七 大学事務局長</p> <p>八 企画課長</p> <p>九 その他大学及び短期大学の学長が指名した者</p> <p>2 前項第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>3 第1項第9号の委員は、必要に応じて置くものとする。</p> <p>(委員長及び副委員長)</p> <p>第5条 FD委員会に委員長及び副委員長を置く。</p> <p>2 委員長は、大学及び短期大学の学長が協議の上指名する者をもって充て、副委員長は、委員長が指名した者をもって充てる。</p> <p>3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。</p> <p>4 副委員長は、委員長を補佐し、必要に応じて、その職務を代理する。</p> <p>(会議)</p> <p>第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。</p> <p>2 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。</p> <p>3 委員長は、必要に応じて委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。</p> <p>(庶務)</p> <p>第7条 FDに関する庶務は、企画課において処理する。</p> <p>(規程の改廃)</p> <p>第8条 この規程の改廃は、大学・短期大学の学長が大学・短期大学運営会議の意見を聴いて行う。</p> <p>附 則 (令和2年6月3日学長承認)</p> <p>1 この規程は、令和2年6月3日から施行し、4月1日から適用する。</p> <p>2 植草学園大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程（平成20年4月1日制定）は、廃止する。</p>

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

（令和3年度実績）

- ・ 第1回FD委員会（令和3年4月14日）
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、
リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、
大学事務局次長、企画課長
- ・ 第2回FD委員会（令和3年5月12日）
出席者：委員長、学長、発達教育学部長、リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、
保健医療学部選出教員、短大選出教員、企画課長
- ・ 第3回FD委員会（令和3年6月9日）
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、短大学科長、
発達支援教育学科主任、リハビリテーション学科主任、発達教育学部選出教員、短大選出教員、
大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・ 第4回FD委員会（令和3年7月14日）
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、リハビリテーション学科主任、
発達支援教育学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、
大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・ 第5回FD委員会（令和3年9月8日）
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、リハビリテーション学科主任、
発達支援教育学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、
企画課長
- ・ 臨時FD委員会（令和3年10月13日）（授業改善のための実態調査に係る学生ヒアリング）
出席者：委員長、企画課長、学生代表 子ども未来学科2名
- ・ 臨時FD委員会（令和3年11月22日）（授業改善のための実態調査に係る学生ヒアリング）
出席者：委員長、企画課長、学生代表 子ども未来学科2名
- ・ 臨時FD委員会（令和3年11月24日）（授業改善のための実態調査に係る学生ヒアリング）
出席者：委員長、企画課長、学生代表 発達教育学部1名・保健医療学部1名
- ・ 第6回FD委員会（令和3年12月8日）
出席者：委員長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、
リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、
短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・ 第7回FD委員会（令和3年12月22日）メール審議
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、
リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、
短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・ 第8回FD委員会（令和4年2月9日）
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、
リハビリテーション学科主任、短大学科長（オンライン）、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、
短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長

c 委員会の審議事項等

- ・ 授業評価に関する事項
- ・ 新任教員研修に関する事項
- ・ FDに関する講演会・シンポジウム等の開催に関する事項
- ・ 教員の教授活動相互研鑽に関する事項
- ・ 教育効果を上げるための教授法改善、シラバスの工夫、成績評価、教材開発等に関する事項
- ・ FDに関する広報活動に関する事項
- ・ その他教育方法等の改善に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 大学、短大合同FD研修会の実施（年5回）
- ・ 授業改善の取り組み事例の発表
- ・ 学生による「授業改善のための実態調査」（授業アンケート）の実施

b 実施方法

大学・短大合同FD研修会は、教授会後の時間を利用して計5回実施した。

当日やむを得ず欠席となった教員にも、録画した動画を視聴してもらうことで全員参加としている。

いずれも終了後にアンケートを実施し、理解度の確認を行っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- 第1回 令和3年 5月19日 「本学における数理・データサイエンス」必修化の背景と実施の方向性（全教員参加）
- 第2回 令和3年 6月16日 「優れた授業の取り組み事例」～令和2年度ティーチング・ポートフォリオから～（全教員参加）
- 第3回 令和3年 9月15日 「公的研究費に関わるコンプライアンスについて」（全教員参加）
- 第4回 令和3年10月20日 「授業科目間の成績評価の平準化について」（全教員参加）
- 第5回 令和4年 1月19日 「教育の質保証と学修成果の可視化」（全教員参加）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ① FD研修において、授業改善の取り組み事例を発表する場を設け、教育方法や授業を展開する上での工夫などを共有することで、各々が授業構成について振り返る機会とした。
- ② 学生に対する授業評価アンケートは、全学で学内ポータルシステム（キャンパスプランポータル）のアンケート機能により、WEBアンケート形式で実施している。令和3年度より、学生から入力された自由意見に対して、教員から回答コメントを入力できる機能を活用し、これまで以上に学生へのフィードバックができる環境とした。学生からの要望を汲み取り、可能な限り反映させることにより授業改善を図っている。
- ③ これらのFD研修会によって、教育の質保証の観点からシラバス作成、授業内容、成績評価法について学内の共通化を図った。

③学生に対する授業アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

（令和3年度実績）

実施時期：前期 令和3年5月10日～令和3年7月末日
後期・通期 令和3年11月1日～令和4年1月21日

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生に対する授業評価アンケートは、全学で学内ポータルシステム（キャンパスプランポータル）のアンケート機能により、WEBアンケート形式で実施している。学生及び教員は、各自が履修又は担当している授業のアンケート結果を、学生回答の翌日の自動集計により閲覧可能である。結果はホームページ上で公表している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

保健医療学部リハビリテーション学科は、建学の精神に基づいた豊かな人間性と高度な知識及び高い倫理性を備えた人材養成を推進し、保健医療福祉の現場において、リハビリテーションの専門家として地域社会の発展に寄与する人材養成を目的としている。特に、地域の高齢化社会に対応できるように学科内に、理学療法学と作業療法学の2専攻を置くことにより、リハビリテーションの需要に幅広く対応できる体制を築くこととした。令和3年度の入試では、入学定員80名（理学40名、作業40名）に対し、全入試形態の合計で187名（理学134名、作業53名）の志願者が集まった。

理学療法学専攻に関しては妥当な学力を持つ学生を確保することが出来、44名の入学者を確保することができた。作業療法学専攻に関しては、37名の合格者のうち実際に入学したのは20名であった。作業療法学専攻においては、入学定員数を確保するため、広報活動を強化する必要がある。教育課程に関してはコロナ禍も2年目となり遠隔授業を少なくし、対面授業を多くした。臨床実習科目も、施設等の協力により実施することができた。したがってカリキュラムポリシーに沿った教育を行うことができた。今後も目的達成のために、申請時の計画を確実に履行していく次第である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「令和3年度自己点検評価書」を令和4年7月中に公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開（令和4年7月中）

③ 認証評価を受ける計画

令和2年度「公益財団法人高等教育評価機構」の認証評価を受審し、適格認定を受けた。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和4年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F112310102583

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

植草学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人植草学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学事務局企画課

職名・氏名 カチョウ ヤナギ エイコ
課長 柳 英子

電話番号 043-233-9061

（夜間） なし

e-mail kikaku1@uekusa.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

保健医療学部

＜リハビリテーション学科 作業療法学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人植草学園

(2) 大学名

植草学園大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒264-0007
千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ウエクサ カズノリ) 植草 和典 (平成28年4月)		
学長	(ナカザワ ジュン) 中澤 潤 (平成30年4月)		
学部長	(クワナ シュンイチ) 桑名 俊一 (平成30年4月)		
学科長等	(クワナ シュンイチ) 桑名 俊一 (平成27年4月)	(ミウラ タツヒロ) 三浦 達浩 (令和2年4月)	任期満了に伴う変更(令和2年4月1日)(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 学士（作業療法学）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	4 年	40 人	年次 人	160 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期													
A 入学定員	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	0.68倍	— 倍				
志願者数	— (—) [—]	70 (—) [—]	— (—) [—]	84 (—) [—]	— (—) [—]	61 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]						
受験者数	— (—) [—]	70 (—) [—]	— (—) [—]	73 (—) [—]	— (—) [—]	53 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]						
合格者数	— (—) [—]	59 (—) [—]	— (—) [—]	60 (—) [—]	— (—) [—]	37 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]						
B 入学者数	— (—) [—]	26 (—) [—]	— (—) [—]	36 (—) [—]	— (—) [—]	20 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]						
入学定員超過率 B/A	—		—		0.65		0.90		0.50						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください）。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	26 [-] (-)	- [-] (-)	36 [-] (-)	- [-] (-)	20 [-] (-)	- [-] (-)				
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	26 [-] (-)	- [-] (-)	36 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	22 [-] (-)
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	26 [-] (-)	62 [-] (-)					78 [-] (2)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	26 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	62 人	4 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人) 就学意欲の低下(1人)
			令和3年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人) 他学部への転部(1人)
令和4年度	78 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合計		4 人		4 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{26} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{62} = \boxed{6.45} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{78} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間と道徳	1前	2								1	
	哲学入門	1・2後		2							1	
	倫理学入門	1・2後		2							1	
	心理学	1・2前	2								1	
	教育学入門	1・2前		2							1	
	文学の世界	1・2前		2							1	
	音楽の世界	1・2後		2							1	
	歴史学	1・2前		2							1	
	法学入門	1・2後		2							1	
	日本国憲法	1前		2							1	
	政治学	1・2前		2							1	
	経済学入門	1・2前		2							1	
	社会学入門	1・2前		2							1	
	基礎物理学	1・2前		2							1	
	基礎化学	1・2前		2							1	
	基礎生物学	1・2前		2							1	
	統計学入門	1・2後	2								1	
	人間関係論	1・2前	2								1	
	国際関係論	1・2後		2							1	
	コミュニケーション論	1・2後	2								1	
	環境科学	1・2後		2							1	
	障害インクルージョン論	1・2後		2							1	
小計(22科目)	-	-	10	4	34						22	
体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後		1							1	
	スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後		2							1	
	スポーツ健康科学基礎理論	1後		1							1	
	体育(ソフトボール)	1・2前		1							1	
	体育(バドミントン)	1・2後		1							1	
	体育(テニス)	1・2前		1							1	
	体育(弓道)	1・2前		1							1	
	体育(ダンス)	1・2後		1							1	
	体育(水泳)	1・2前		1							2	
	小計(9科目)	-	-	0	2	10	0	0	0	0	0	10
	国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2				1				2
英語Ⅱ		1後	2				1				1	
英会話		1・2前・後		2							1	
実践英語		1・2後		2			1				1	
中国語入門		1・2前		2							1	
フランス語入門		1・2前		2							1	
ドイツ語入門		1・2後		2							1	
小計(7科目)	-	-	4	2	10	0	3	0	0	0	8	
基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後		2							1	
	文章表現演習	1前		2							2	
	読書技術演習	1・2前・後		2							2	
	自然科学基礎演習	1前	2			1					0	
	海外福祉研修	1・2・3・4		1		1					0	
小計(5科目)	-	-	2	2	7	2	0	0	0	0	5	
合計(43科目)	-	-	16	10	61	2	3	0	0	0	45	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間と道徳	1前	2								1	
	哲学入門	1・2後		2							1	
	倫理学入門	1・2後		2							1	
	心理学	1・2前	2								1	
	教育学入門	1・2前		2							1	
	文学の世界	1・2前		2							1	
	音楽の世界	1・2後		2							1	
	歴史学	1・2前		2							1	
	行動科学入門	1・2後		2							1	
	法学入門	1・2前		2							1	
	日本国憲法	1前		2							1	
	政治学	1・2前		2							1	
	経済学入門	1・2前		2							1	
	社会学入門	1・2前		2							1	
	基礎物理学	1・2前		2							1	
	基礎化学	1・2前		2							1	
	バイオリテラシー入門	1・2前		2							1	
	統計学入門	1・2前	2								1	
	データサイエンス入門	1後		2							1	
	人間関係論	1・2前	2								1	
	国際関係論	1・2後		2							1	
	コミュニケーション論	1・2後	2								1	
環境科学	1・2後		2							1		
障害インクルージョン論	1・2後		2							1		
小計(24科目)	-	-	10	4	38	0	0	0	0	0	24	
体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後		1							1	
	スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後		2							1	
	スポーツ健康科学基礎理論	1後		1							1	
	体育実技A	1・2前		1							1	
	体育実技B	1・2前		1							1	
	体育実技C	1・2後		1							1	
	体育実技D	1・2前		1							1	
	小計(7科目)	-	-	0	2	8	0	0	0	0	0	7
	国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2				1				2
		英語Ⅱ	1後	2				1				2
		英会話	1・2前・後		2							1
実践英語		1・2後		2			1				1	
中国語入門		1・2前		2							1	
フランス語入門		1・2前		2							1	
ドイツ語入門		1・2後		2							1	
小計(7科目)	-	-	4	2	10	0	3	0	0	0	8	
基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後		2							1	
	文章表現演習	1後		2							1	
	読書技術演習	1・2前		2							1	
	自然科学基礎演習	1前	2			1					0	
	海外福祉研修	1・2・3・4後		1		1					0	
小計(5科目)	-	-	2	2	7	2	0	0	0	0	3	
合計(43科目)	-	-	16	10	63	2	3	0	0	0	42	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門基礎科目	解剖学	1前	2			1					
	解剖学実習	1後	1			1					
	生理学	1前	2			1					
	生理学実習	1後	1			1					
	人体機能構造学演習	1前	1								1
	運動学Ⅰ	1後	1			2					
	運動学Ⅱ	2前	1			2					
	運動学実習	2後	1			2					
	臨床心理学	2前	1								1
	人間発達学	2後	1								1
	病理学	2前	1								2
	一般臨床医学	2前	1			1					
	内科学	2通	2			1					1
	整形外科	2通	2								1
	神経内科学	2通	2			1					
	精神医学	2前	1								1
	小児科学	2前	1			1					
	薬理学	2・3前	1								1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	1			1					
	チーム医療演習	3後	1					2			
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3前		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1								1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3前	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
	看護学	2・3後		1							1
	画像診断学	3前	1								3
小計(34科目)	—	32	5	10	16	0	2	0	0	24	
専門科目	理学療法学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1			1		1			
	エレメンタリーセミナー	1前	1			2		1	2		
	インターメディアイトセミナー	2前	1				1	1			
	リハビリテーション研究法	3前	1				1	1			
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1			1				
	アドバンスセミナー	3後	1				1	1	1		
	福祉工学	3後		1			1				
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1				1	1			
	医用画像特論	3後	1								1
	ステップアップ演習	3前		1			4				
	プロフェッショナルセミナー	4通	1				1			1	
	生活環境学	3後	1					1	1		
	プロフェッショナルスキル	4通	1						2		
小計(14科目)	—	11		3	10	6	8	4	0	2	
作業療法学	作業療法学概論	1前	1			1					
	音楽療法概論	1後		2		1					
	作業学	1前	1			1					
	作業学演習Ⅰ:木工	1前	1			1				1	2
	作業学演習Ⅱ:織物・園芸	1前		1		1				1	2
	作業学演習Ⅲ:陶芸・手工芸	1後		1						1	1
	作業療法評価学総論	2後	1				1				
	作業療法治療学総論Ⅰ	3前	1					1			
	作業療法治療学総論Ⅱ	3後	1				1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門基礎科目	解剖学	1前	2			1					
	解剖学実習	1後	1			1			1		
	生理学	1前	2			1					
	生理学実習	1後	1			1				1	
	人体機能構造学演習	1前	1								1
	運動学Ⅰ	1後	1					1			
	運動学Ⅱ	2前	1					1			
	運動学実習	2後	1					2			
	臨床心理学	2前	1								1
	人間発達学	2後	1								1
	病理学	2前	1								1
	一般臨床医学	2前	1					1			
	内科学	2通	2								1
	整形外科	2通	2								1
	神経内科学	2通	2					1			
	精神医学	2前	1								2
	小児科学	2前	1					1			1
	薬理学	2・3前	1								1
	リハビリテーション概論	1前	1					1			
	リハビリテーション医学	2後	1					1			
	チーム医療演習	3前	1						1	2	
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3後		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1								1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3後	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
	看護学	2・3前		1							1
	画像診断学	3前	1								5
小計(34科目)	—	32	5	10	13	1	5	0	0	26	
専門科目	理学療法学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1				1		1		
	エレメンタリーセミナー	1前	1				2	1		1	
	インターメディアイトセミナー	2通	1				1	2	1		
	リハビリテーション研究法	3前	1				1	2			
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1				1			
	アドバンスセミナー	3後	1					6	3	3	4
	福祉工学	3後		1				1			
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1					1			
	医用画像特論	3後	1					1	1		2
	ステップアップ演習	3前		1				4			
	プロフェッショナルセミナー	4通	1					1			1
	生活環境学	3後	1						2		
	プロフェッショナルスキル	4通	1						1	1	2
小計(14科目)	—	11		3	19	14	7	10	0	2	
作業療法学	作業療法学概論	1前	1			1					
	音楽療法概論	1後		2		1					
	作業学	1前	1						1		
	作業学演習Ⅰ:木工	1前	1						1		2
	作業学演習Ⅱ:織物・園芸	1前		1		1					2
	作業学演習Ⅲ:陶芸・手工芸	1後		1						1	1
	作業療法評価学総論	2前	1					1	1		
	作業療法治療学総論Ⅰ	3前	1					1		2	
	作業療法治療学総論Ⅱ	3前	1					1		2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門教育科目	作業療法学専門科目	身体機能と作業療法評価学	2後	1			1				
		身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1				1			
		身体機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1				1
		精神機能と作業療法評価学	2後	1			1				
		精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1				
		精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1				
		認知機能と作業療法評価学	2後	1					1		
		認知機能と作業療法治療学	3前	1					1		
		発達機能と作業療法評価学	2後	1			1		1		
		発達機能と作業療法治療学	3前	1			1		1		
		加齢と作業療法学	3前	1			1				1
		内部障害と作業療法学	3前	1			1				
		摂食嚥下の作業療法	3前	1			1				1
		日常生活活動と作業療法Ⅰ	3前	1				1			
		日常生活活動と作業療法Ⅱ	3後	1				1			
		義肢学・装具学	3後	1						1	1
		就労支援と作業療法学	3後	1			1				1
		地域作業療法Ⅰ	2前	1			1				
		地域作業療法Ⅱ	2後	1			1				1
		基礎作業療法学見学実習	2前	1			3		1	1	1
		地域作業療法学実習	3前	1			2		2	1	1
		作業療法評価学臨床実習	3後	4			2	1	1	1	1
		総合臨床実習Ⅰ	4前	8			3	1	2	1	1
		総合臨床実習Ⅱ	4後	8			4	1	2	1	1
卒業研究	4通	4			4	1	2	1	1		
小計(34科目)	—	51	4		36	8	16	7	9	11	
専門科目(作業療法学)小計(48科目)	—	62	2	7	46	14	24	11	9	13	
専門教育科目(作業療法学)合計(82科目)	—	94	7	17	62	14	26	11	9	37	
(作業療法学)合計(125科目)	—	110	17	78	64	17	26	11	9	82	
卒業要件及び履修方法											
<p>I 卒業要件 教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。)、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、作業療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。</p> <p>II 履修方法等 1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。 一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。 二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。 三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。 四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。</p> <p>2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする 一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。 二 専門科目は、作業療法学専攻は、必修科目の計62単位のほか、選択科目の中から計2単位を修得し、合計64単位を修得する。</p> <p>3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。 履修科目の登録の上限：1年次及び2年次 48単位(年間) 3年次 45単位(年間) 4年次 40単位(年間)</p>											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門教育科目	作業療法学専門科目	身体機能と作業療法評価学	2前	1			1	1			
		身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1	2			
		身体機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1	1	2		
		精神機能と作業療法評価学	2後	1			1				
		精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1			1	
		精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1			1	
		認知機能と作業療法評価学	2後	1					2		
		認知機能と作業療法治療学	3前	1					2		
		発達機能と作業療法評価学	2後	1			1		1		
		発達機能と作業療法治療学	3前	1			1		1		
		加齢と作業療法学	3前	1			1				
		内部障害と作業療法学	3前	1			1				
		摂食嚥下の作業療法	3前	1			1		1		
		日常生活活動と作業療法Ⅰ	3前	1			1	1			
		日常生活活動と作業療法Ⅱ	3後	1			2	1	2		
		義肢学・装具学	3後	1						1	1
		就労支援と作業療法学	3後	1			1		1		
		地域作業療法Ⅰ	2前	1			1				
		地域作業療法Ⅱ	2後	1			1			1	
		基礎作業療法学見学実習	2前	1			1		1		
		地域作業療法学実習	3前	1			1		1		
		作業療法評価学臨床実習	3後	4				1	1		
		総合臨床実習Ⅰ	4前	8			3	1	2	1	1
		総合臨床実習Ⅱ	4後	8			4	1	2	1	1
卒業研究	4通	4			4	1	2	1	1		
小計(34科目)	—	51	4		34	11	30	4	3	9	
専門科目(作業療法学)小計(48科目)	—	62	2	7	53	25	37	14	3	11	
専門教育科目(作業療法学)合計(82科目)	—	94	7	17	66	26	42	14	3	37	
(作業療法学)合計(125科目)	—	110	17	80	68	29	42	14	3	79	
卒業要件及び履修方法											
<p>I 卒業要件 教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。)、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、作業療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。</p> <p>II 履修方法等 1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。 一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。 二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。 三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。 四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分のその他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。</p> <p>2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする 一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。 二 専門科目は、作業療法学専攻は、必修科目の計62単位のほか、選択科目の中から計2単位を修得し、合計64単位を修得する。</p> <p>3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。 履修科目の登録の上限：1年次及び2年次 48単位(年間) 3年次 45単位(年間) 4年次 40単位(年間)</p>											

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人間と道徳	1前	2								1	
	哲学入門	1・2後	2								1	
	倫理学入門	1・2後	2								1	
	心理学	1・2前	2								1	
	教育学入門	1・2前	2								1	
	文学の世界	1・2前	2								1	
	音楽の世界	1・2後	2								1	
	歴史学	1・2前	2								1	
	法学入門	1・2後	2								1	
	日本国憲法	1前	2								1	
	政治学	1・2前	2								1	
	経済学入門	1・2前	2								1	
	社会学入門	1・2前	2								1	
	基礎物理学	1・2前	2								1	
	基礎化学	1・2前	2								1	
	基礎生物学	1・2前	2								1	
	統計学入門	1・2後	2								1	
	人間関係論	1・2前	2								1	
	国際関係論	1・2後	2								1	
	コミュニケーション論	1・2後	2								1	
	環境科学	1・2後	2								1	
	障害インクルージョン論	1・2後	2								1	
	小計(22科目)	-	10	4	34	0	0	0	0	0	22	
	体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後	1								1
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後	2								1
		スポーツ健康科学基礎理論	1後	1								1
		体育実技A	1・2前	1								1
		体育実技B	1・2前	1								1
		体育実技C	1・2後	1								1
		体育実技D	1・2前	1								1
		小計(7科目)	-	0	2	8	0	0	0	0	0	7
	国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2			1					2
		英語Ⅱ	1後	2			1					2
		英会話	1・2前・後	2								1
		実践英語	1・2後	2			1					1
		中国語入門	1・2前	2								1
		フランス語入門	1・2前	2								1
		ドイツ語入門	1・2後	2								1
	小計(7科目)	-	4	2	10	0	3	0	0	0	8	
	基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後	2								1
		文章表現演習	1後	2								1
読書技術演習		1・2前	2								1	
自然科学基礎演習		1前	2			1					0	
海外福祉研修		1・2・3・4後	1			1					0	
小計(5科目)	-	2	2	7	2	0	0	0	0	3		
合計(41科目)	-	16	10	59	2	3	0	0	0	40		
基礎演習科目	解剖学	1前	2			1						
	解剖学実習	1後	1			1		1				
	生理学	1前	2			1						
	生理学実習	1後	1			1		2				
	人体機能構造学演習	1前	1								1	
	運動学Ⅰ	1後	1			1						
	運動学Ⅱ	2前	1			1						
	運動学実習	2後	1			2						
	臨床心理学	2前	1								1	
	人間発達学	2後	1								1	
	病理学	2前	1								1	
	一般臨床医学	2前	1			1						

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人間と道徳	1前	2								1	
	哲学入門	1・2後	2								1	
	倫理学入門	1・2後	2								1	
	心理学	1・2前	2								1	
	教育学入門	1・2前	2								1	
	文学の世界	1・2前	2								1	
	音楽の世界	1・2後	2								1	
	歴史学	1・2前	2								1	
	法学入門	1・2後	2								1	
	日本国憲法	1前	2								1	
	政治学	1・2前	2								1	
	経済学入門	1・2前	2								1	
	社会学入門	1・2前	2								1	
	基礎物理学	1・2前	2								1	
	基礎化学	1・2前	2								1	
	基礎生物学	1・2前	2								1	
	統計学入門	1・2後	2								1	
	人間関係論	1・2前	2								1	
	国際関係論	1・2後	2								1	
	コミュニケーション論	1・2後	2								1	
	環境科学	1・2後	2								1	
	障害インクルージョン論	1・2後	2								1	
	小計(22科目)	-	10	4	34	0	0	0	0	0	22	
	体育・スポーツ科目	スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	1後	1								1
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	1後	2								1
		スポーツ健康科学基礎理論	1後	1								1
		体育(ソフトボール)	1・2前	1								1
		体育(バドミントン)	1・2後	1								2
		体育(テニス)	1・2前	1								1
		体育(弓道)	1・2前	1								1
		体育(ダンス)	1・2後	1								1
		体育(水泳)	1・2前	1								2
		小計(9科目)	-	0	2	10	0	0	0	0	0	11
		国際コミュニケーション	英語Ⅰ	1前	2			1				
	英語Ⅱ		1後	2			1					2
	英会話		1・2前・後	2								1
	実践英語		1・2後	2			1					0
	中国語入門		1・2前	2								1
	フランス語入門		1・2前	2								1
	ドイツ語入門		1・2後	2								1
	小計(7科目)	-	4	2	10	0	3	0	0	0	8	
基礎演習科目	情報機器演習	1・2前・後	2								1	
	文章表現演習	1前	2								2	
	読書技術演習	1・2前・後	2								2	
	自然科学基礎演習	1前	2			1				1	0	
	海外福祉研修	1・2・3・4	1			1					0	
小計(5科目)	-	2	2	7	2	0	0	1	0	5		
合計(43科目)	-	16	10	61	2	3	0	1	0	46		
基礎演習科目	解剖学	1前	2			1						
	解剖学実習	1後	1			1		1				
	生理学	1前	2			1						
	生理学実習	1後	1			1		1	1			
	人体機能構造学演習	1前	1								1	
	運動学Ⅰ	1後	1			1						
	運動学Ⅱ	2前	1			2						
	運動学実習	2後	1			2						
	臨床心理学	2前	1								1	
	人間発達学	2後	1								1	
	病理学	2前	1								2	
	一般臨床医学	2前	1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	内科学	2通	2								1
	整形外科科学	2通	2								1
	神経内科学	2通	2			1					
	精神医学	2前	1								1
	小児科学	2前	1			1					1
	薬理学	2・3前	1							1	1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	1			1					
	チーム医療演習	3後	1					2			
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3前		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1							1	1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3前	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
看護学	2・3前		1							1	
画像診断学	3前	1								3	
小計(34科目)	—	32	5	10	13	0	5	0	0	24	
理学療法・作業療法	リスク管理学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1			1		1			
	エレメンタリーセミナー	1前	1			1		2	1		
	インターメディエイトセミナー	2通	1			1		1			
	リハビリテーション研究法	3前	1			1		1			
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1				1			
	アドバンスセミナー	3後	1			2	1	2	3		
	福祉工学	3後		1				1			
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1			1		1			
	医用画像特論	3後	1								1
	ステップアップ演習	3前		1			4				
	プロフェッショナルセミナー	4通	1			1				1	
	生活環境学	3後	1					1	1		
	プロフェッショナルスキル	4通	1			1	1	2	2		
小計(14科目)	—	11	3		11	8	10	7	0	2	
共通科目	作業療法概論	1前	1			1					
	音楽療法概論	1後		2		1					
	作業学	1前	1				1				
	作業学演習Ⅰ:木工	1前	1				1				2
	作業学演習Ⅱ:織物・園芸	1前		1		1					2
	作業学演習Ⅲ:陶芸・手工芸	1後		1				2			1
	作業療法評価学総論	2前	1			1					
	作業療法治療学総論Ⅰ	3前	1					1			
	作業療法治療学総論Ⅱ	3後	1			1					
	身体機能と作業療法評価学	2前	1				1	1			
	身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1					1			
	身体機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1					1
	精神機能と作業療法評価学	2後	1			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	内科学	2通	2			1					1
	整形外科科学	2通	2								1
	神経内科学	2通	2			1					
	精神医学	2前	1								1
	小児科学	2前	1			1					1
	薬理学	2・3前	1							1	1
	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	1			1					
	チーム医療演習	3後	1						2		
	社会福祉学	1・2前		2							1
	特別支援教育概論	1・2・3前		1							1
	障害者・高齢者の福祉	1・2後		1							1
	障害者・高齢者の心理	1・2後		1							1
	生命倫理学	2・3前	1								1
	言語聴覚学概論	2・3前		2							1
	救命救急医学	2・3前	1							1	1
	栄養学	2・3前	1								1
	予防医学	3前	1								1
	病原微生物学	2・3後	1								1
	生化学	2・3前		2							1
看護学	2・3後		1							1	
画像診断学	3前	1								3	
小計(34科目)	—	32	5	10	15	0	4	1	0	24	
理学療法・作業療法	リスク管理学	3前	1								1
	リハビリテーション管理学	3前	1			1		1			
	エレメンタリーセミナー	1前	1			1		1	1	3	
	インターメディエイトセミナー	2前	1				1	1			
	リハビリテーション研究法	3前	1			1		1			
	リハビリテーション英文講読	2・3後		1				1			
	アドバンスセミナー	3後	1			2	1	2	3		
	福祉工学	3後		1				1			
	リハビリテーションとロボットテクノロジー	3後	1			1		1			
	医用画像特論	3後	1								1
	ステップアップ演習	3前		1			4				
	プロフェッショナルセミナー	4通	1			1				1	
	生活環境学	3後	1					1	1		
	プロフェッショナルスキル	4通	1			1	1	2	2		
小計(14科目)	—	11	3		11	8	9	9	0	2	
共通科目	作業療法概論	1前	1			1					
	音楽療法概論	1後		2		1					
	作業学	1前	1				1				
	作業学演習Ⅰ:木工	1前	1				1				2
	作業学演習Ⅱ:織物・園芸	1前		1		1					1
	作業学演習Ⅲ:陶芸・手工芸	1後		1				2			1
	作業療法評価学総論	2後	1			1					
	作業療法治療学総論Ⅰ	3前	1					1			
	作業療法治療学総論Ⅱ	3後	1			1					
	身体機能と作業療法評価学	2後	1				1				
	身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1					1			
	身体機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1					1
	精神機能と作業療法評価学	2後	1			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1						
	精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1						
	認知機能と作業療法評価学	2後	1					1				
	認知機能と作業療法治療学	3前	1					1				
	発達機能と作業療法評価学	2後	1			1		1				
	発達機能と作業療法治療学	3前	1			1		1				
	加齢と作業療法学	3前	1			1					1	
	内部障害と作業療法学	3前	1			1						
	摂食嚥下の作業療法	3前	1			1						1
	日常生活活動と作業療法Ⅰ	3前	1				1					
	日常生活活動と作業療法Ⅱ	3後	1				1					
	義肢学・装具学	3後	1						1			1
	就労支援と作業療法学	3後	1				1					1
	地域作業療法学Ⅰ	2前	1				1					
	地域作業療法学Ⅱ	2後	1				1					1
	基礎作業療法学見学実習	2前	1				4		2			
	地域作業療法学実習	3前	1				2		2	1	1	
	作業療法評価学臨床実習	3後	4				2	1	1	1	1	1
	総合臨床実習Ⅰ	4前	8				3	1	2	1	1	
	総合臨床実習Ⅱ	4後	8				4	1	2	1	1	
	卒業研究	4通	4				4	1	2	1	1	
	小計(34科目)	—	51	4			35	10	20	6	5	11
	専門科目(作業療法学)小計(48科目)	—	62	2	7		46	18	30	13	5	13
専門教育科目(作業療法学)合計(82科目)	—	94	7	17		59	18	35	13	5	37	
(作業療法学)合計(125科目)	—	110	17	76		61	21	35	13	5	77	

卒業要件及び履修方法

- I 卒業要件**
 教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。)、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、作業療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。
- II 履修方法等**
 1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。
 一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分の他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。
 二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。
 三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分の他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。
 四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分の他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。
2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする
 一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。
 二 専門科目は、作業療法学専攻は、必修科目の計62単位のほか、選択科目の中から計2単位を修得し、合計64単位を修得する。
3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。
 履修科目の登録の上限:1年次及び2年次 48単位(年間)
 3年次 45単位(年間)
 4年次 40単位(年間)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1						
	精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3後	1			1						
	認知機能と作業療法評価学	2後	1					1				
	認知機能と作業療法治療学	3前	1					1				
	発達機能と作業療法評価学	2後	1			1		1				
	発達機能と作業療法治療学	3前	1			1		1				
	加齢と作業療法学	3前	1			1					1	
	内部障害と作業療法学	3前	1			1						
	摂食嚥下の作業療法	3前	1			1						1
	日常生活活動と作業療法Ⅰ	3前	1				1					
	日常生活活動と作業療法Ⅱ	3後	1				1					
	義肢学・装具学	3後	1						1			1
	就労支援と作業療法学	3後	1				1					1
	地域作業療法学Ⅰ	2前	1				1					
	地域作業療法学Ⅱ	2後	1				1					1
	基礎作業療法学見学実習	2前	1				3		1	1	1	
	地域作業療法学実習	3前	1				2		2	1	1	
	作業療法評価学臨床実習	3後	4				2	1	1	1	1	1
	総合臨床実習Ⅰ	4前	8				3	1	2	1	1	
	総合臨床実習Ⅱ	4後	8				4	1	2	1	1	
	卒業研究	4通	4				4	1	2	1	1	
	小計(34科目)	—	51	4			34	10	17	8	9	10
	専門科目(作業療法学)小計(48科目)	—	62	0	7		45	18	26	17	9	12
専門教育科目(作業療法学)合計(82科目)	—	94	7	17		60	18	30	18	9	36	
(作業療法学)合計(125科目)	—	110	17	78		62	21	30	19	9	82	

卒業要件及び履修方法

- I 卒業要件**
 教養教育科目26単位(基礎科目14単位(必修科目計10単位を含む。))、体育・スポーツ科目2単位、国際コミュニケーション科目6単位(必修科目4単位を含む。))及び基礎演習科目4単位(必修科目2単位を含む。))を基礎として、作業療法学専攻は、専門教育科目101単位(専門基礎科目37単位及び専門科目64単位)、合計127単位以上を修得する。
- II 履修方法等**
 1. 教養教育科目の履修方法は、次のとおりとする。
 一 基礎科目は、人間と道徳2単位、心理学2単位、統計学入門2単位、人間関係論2単位及びコミュニケーション論2単位、計10単位を必修し、同科目区分の他の科目の中から計4単位を修得し、合計14単位を修得する。
 二 体育・スポーツ科目は、同科目区分の全科目の中から合計2単位を修得する。
 三 国際コミュニケーション科目は、英語Ⅰ2単位及び英語Ⅱ2単位を必修し、同科目区分の他の科目の中から計2単位、合計6単位を修得する。
 四 基礎演習科目は、自然科学基礎演習2単位を必修し、同科目区分の他の科目の中から計2単位、合計4単位を修得する。
2. 専門教育科目の履修方法は、次のとおりとする
 一 専門基礎科目は、必修科目の計32単位のほか、選択科目の中から計5単位を修得し、合計37単位を修得する。
 二 専門科目は、作業療法学専攻は、必修科目の計62単位のほか、選択科目の中から計2単位を修得し、合計64単位を修得する。
3. 前項1及び2に定める単位数を超えて修得した単位は、余剰単位として取り扱う。
 履修科目の登録の上限:1年次及び2年次 48単位(年間)
 3年次 45単位(年間)
 4年次 40単位(年間)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・指導体制の見直しにより、「体育(バドミントン)」の兼任・兼任教員の配置を「兼任・兼任教員1」から「兼任・兼任教員2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「英語II」の専任教員等配置を「准教授1」「兼任・兼任教員1」から「准教授1」「兼任・兼任教員2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「実践英語」の専任教員等配置を「准教授1」「兼任・兼任教員1」から「准教授1」「兼任・兼任教員0」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「自然科学基礎演習」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「解剖学実習」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「生理学実習」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「講師1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動学I」の専任教員の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「エレメンタリーセミナー」の専任教員の配置を「教授2」「講師1」「助教2」から「教授1」「講師1」「助教3」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「アドバンストセミナー」の専任教員の配置を「教授1」「講師1」「助教1」から「教授2」「准教授1」「講師2」「助教3」に変更。
- ・担当教員の就任辞退による指導体制の見直しにより、「プロフェッショナルスキル」の専任教員の配置を「講師2」から「教授1」「准教授1」「講師2」「助教2」に変更。
- ・担当教員の就任辞退により、「作業学」の専任教員の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び指導体制の見直しにより、「作業学演習I：木工」の専任教員配置を「教授1」「助手1」から「准教授1」「助手1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「作業学演習Ⅲ：陶芸・手工芸」の専任教員等配置を「助手1」「兼任・兼任1」から「講師1」「助教1」「助手1」「兼任・兼任1」に変更。

【令和3年度】

- ・教育課程の充実を図るため、「体育(ソフトボール)」「体育(バドミントン)」「体育(テニス)」「体育(弓道)」「体育(ダンス)」「体育(水泳)」を廃止し、「体育実技A」「体育実技B」「体育実技C」「体育実技D」を新設した。専任教員等の配置は、それぞれ「兼任・兼任2」とした。
- ・指導体制の見直しにより、「文章表現演習」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「読書技術演習」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「自然科学基礎演習」の専任教員等の配置を「教授1」「助教1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任人事により、「生理学実習」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」「助教1」から「教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「運動学II」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「病理学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「内科学」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任・兼任1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「小児科学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「薬理学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「助手1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「チーム医療演習」の専任教員等の配置を「講師2」から「准教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「救命救急医学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「助手1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直し・担当教員の昇任人事により、「エレメンタリーセミナー」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」「助教3」から「教授1」「講師2」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「作業学演習I：木工」の専任教員等の配置を「准教授1」「助手1」「兼任・兼任2」から「准教授1」「兼任・兼任2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「作業学演習II：織物・園芸」の専任教員等の配置を「教授1」「助手1」「兼任・兼任1」から「教授1」「兼任・兼任2」に変更。
- ・指導体制の見直し・担当教員の昇任人事により、「作業学演習Ⅲ：陶芸・手工芸」の専任教員等の配置を「講師1」「助教1」「助手1」「兼任・兼任1」から「講師2」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「身体機能と作業療法評価学」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直し・担当教員の昇任人事により、「基礎作業療法学見学実習」の専任教員の配置を「教授3」「講師1」「助教1」「助手1」から「教授4」「講師2」に変更。

【令和4年度】

- ・教育課程の充実を図るため、「行動科学入門」「データサイエンス入門」を新設し、それぞれ「兼任1」を配置した。
- ・学生の履修意欲を高めるため、授業科目の名称を「基礎生物学」から「バイオリテラシー入門」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「生理学実習」の専任教員等の配置を「教授1」「講師2」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「精神医学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「チーム医療演習」の専任教員等の配置を「講師2」から「准教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「看護学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「画像診断学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「エレメンタリーセミナー」の専任教員等の配置を「教授1」「講師2」「助教1」から「教授2」「准教授1」「助教1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「インターメディアイトセミナー」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」から「教授1」「准教授2」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「リハビリテーション研究法」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」から「教授1」「准教授2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「アドバンストセミナー」の専任教員等の配置を「教授2」から「准教授1」「講師2」「助教3」から「教授6」「准教授3」「講師3」「助教4」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「医用画像特論」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」「准教授1」「助教2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「生活環境学」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」から「准教授2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「作業学演習Ⅲ：陶芸・手工芸」の専任教員等の配置を「講師2」「兼任・兼任1」から「講師1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「作業療法評価学総論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「作業療法総論I」の専任教員等の配置を「講師1」から「教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「作業療法総論II」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「身体機能と作業療法治療学I」の専任教員等の配置を「講師1」から「教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「身体機能と作業療法治療学II」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任・兼任1」から「教授1」「准教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「精神機能と作業療法治療学I」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「精神機能と作業療法治療学II」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「兼任・兼任1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「認知機能と作業療法評価学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「認知機能と作業療法治療学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「摂食嚥下の作業療法」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任・兼任1」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「日常生活活動と作業療法I」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「日常生活活動と作業療法II」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授2」「准教授1」「講師2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「就労支援と作業療法学」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任・兼任1」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「基礎作業療法学見学実習」の専任教員等の配置を「教授4」「講師2」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「地域作業療法学実習」の専任教員等の配置を「教授2」「講師2」「助教1」「助手1」から「教授1」「講師1」に変更。

(注) ・ 2(1)①② 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77 科目	48 科目	科目	125 科目	77 科目 [—]	48 科目 [—]	科目 [—]	125 科目 [—]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	体育 (ソフトボール)	1	1・2	一般	選択	体育の実技種目に対応した科目名となっていることから、各科目においてさまざまな実技種目を取り扱えるよう科目の見直しを行ったため。 後継科目として「体育実技A~D」のように、特定の実技種目に限定されない科目名として新設した。
2	体育 (バドミントン)	1	1・2	一般	選択	
3	体育 (テニス)	1	1・2	一般	選択	
4	体育 (弓道)	1	1・2	一般	選択	
5	体育 (ダンス)	1	1・2	一般	選択	
6	体育 (水泳)	1	1・2	一般	選択	

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止 (教育課程から削除) した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

変更前は、学生は学期を通じて同じ実技種目に取り組む必要があったが、変更後は、さまざまな実技種目を取り扱うことが可能になるため、学生の多様な体育実技に関するニーズにより適切に対応できるようになった。適用となる令和3年度入学生には、『履修要項』及びガイダンス、履修指導等により周知している。
なお、当該科目は履修年次が「1・2年次」となっているため、令和2年度入学生には、旧科目を開講している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{6}{125} = \boxed{4.80}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	植草学園短期大学 2,350 (必要面積 2,800 ㎡) と共用 200 (収容定員:280人) 短大の専攻廃止に伴う 収容定員減による 変更(3) 〔借用地〕 運動場 991 1,441 1,880 借用面積:2,758㎡ 借用期間:450㎡(6 年一度購入予定の ため期間なし)991㎡ (令和11年3月31日ま で) 購入による借用地の 変更(2)(3)(4)		
	校舎敷地	5,010 ㎡	7,058 ㎡	0 ㎡	12,068 ㎡			
	運動場用地	0 ㎡	18,758 ㎡	0 ㎡	18,758 ㎡			
	小 計	5,010 ㎡	25,816 ㎡	0 ㎡	30,826 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	39,064 ㎡	0 ㎡	39,064 ㎡			
合 計	5,010 ㎡	64,880 ㎡	0 ㎡	69,890 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	植草学園短期大学 1,550 (必要面積 3,350 ㎡) と共用 200 (収容定員:280人)			
	11724.59㎡ 11,712.50 ㎡ (11,712.50 ㎡)	3,196.50 ㎡ (3,196.50 ㎡)	3,945.22 ㎡ (3,945.22 ㎡)	18,866.31㎡ 18,854.22 ㎡ (18,854.22 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 語学学習室は、情報 処理学習施設と兼ね る。 (補助職員 0人) (補助職員 0人)		
	26室	30室	16室	1室	1室			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	保健医療学部 リハビリテーション学科			21 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数 教育の充実のため追 加して購入した(2) (3)(4)
	保健医療学部 リハビリテー ション学科	56,329 [1,496] 55,826[1,471]	567 [47] 542[50]	26,086 [24,400] 29,220[28,313]	2,224 2,182	300 (300)	53 (53)	
		56,214 [1,700] 55,200[1,700]	587 [52] 380[10]	25,230 [23,735] 20,834[19,500]	2,150 (2,224)			
		(56,329 [1,496]) (55,826 [1,471])	(567 [47]) (542 [50])	(26,086 [24,400]) (29,220 [28,313])	(2,224) (2,182)			
		(56,812 [1,463]) (53,900[1,600])	(571 [52]) (360[10])	(25,230 [23,735]) (20,834[19,500])	(2,140) (2,140)			
計	56,329 [1,496] 55,826[1,471]	567 [47] 542[50]	26,086 [24,400] 29,220[28,313]	2,224 2,182	300 (300)	53 (53)		
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
	1,076.86 ㎡		248	57,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	940.21 ㎡		フットサルコート		3on3コート			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
	教員1人当り研究費等	390千円	390千円	図書購入費	11,600千円	9,700千円	10,200千円	
	共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	58,000千円	35,000千円	5,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,870千円	第2年次 1,600千円	第3年次 1,600千円	第4年次 1,600千円	第5年次 -千円	第6年次 -千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要 私立大学等経常経費補助金、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は△C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	植草学園大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
発達教育学部	4	140	-	560				-	平成20	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3	
発達支援教育学科	4	140	-	560	学士(教育学)	0.75	0.60	-	平成20	同上	
保健医療学部	4	80	-	320				-	平成20	同上	定員変更(40)
理学療法学科	4	-	-	-	学士(理学療法)	-	-	-	平成20	同上	令和2年募集停止
リハビリテーション学科	4	80	-	320				-	令和2	同上	
理学療法学専攻	4	40	-	160	学士(理学療法)	1.11	1.10	-	令和2	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	160	学士(作業療法)	0.68	0.50	-	令和2	同上	
大学全体	-	220	-	880	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	植草学園短期大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
こども未来学科	2	100	-	200	短期大学士(児童福祉学)	0.73	0.57		平成11年度	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3	学科名称変更
大学全体	-	100	-	200	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合を含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 齋田孝俊教授の就任辞退により、後任に福山英明教授を追加。(発達機能と作業療法評価学、発達機能と作業療法治療学、作業療法評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、卒業研究)
- ・ 池田恭敏教授の担当科目を追加。(作業学演習Ⅱ：織物・園芸)
- ・ 千田直人准教授の担当科目を追加。(作業学、作業学演習Ⅰ：木工)
- ・ 大塚栄子講師の担当科目を追加。(解剖学実習、作業学演習Ⅲ：陶芸・手工芸)
- ・ 館岡周平助教の担当科目を追加。(生理学実習、作業学演習Ⅲ：陶芸・手工芸)
- ・ 高野良子兼担教授辞退により、小野まどか兼担講師に変更。(教育学入門)
- ・ 長谷川修治兼担教授の担当科目を削除。(実践英語)共同担当教員がいるため支障はない。
- ・ 三浦達浩兼担教授の担当科目(運動学Ⅰ)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル)
- ・ 倉山太一兼担教授の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル)
- ・ 村上悦子兼担講師が、兼担教授に昇任。
- ・ 角正美兼担講師の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル)
- ・ 松岡瑞雄兼担助教の担当科目を追加。(自然科学基礎演習、エレメンタリーセミナー、プロフェッショナルスキル)
- ・ 千葉諭兼担助教の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、プロフェッショナルスキル。)
- ・ 水江年城兼担教授の担当科目を追加。(アドバンストセミナー)
- ・ 植草泰憲兼担助教の担当科目を追加。(アドバンストセミナー)
- ・ 野澤和弘兼担講師が、令和2年度より発達教育学部教授として就任したため、兼担教授に昇任。担当科目を追加。(文章表現演習)
- ・ 岡田聡志兼任講師辞退により、松本暢平兼任講師に変更。(統計学入門)
- ・ 教育課程充実の理由により、青柳篤兼担講師を追加。(体育(バドミントン))
- ・ 西山友貴兼任講師辞退により、鈴木瑛貴兼担講師に変更。(体育(ダンス))
- ・ 指導体制見直しにより、大塚孝一兼任講師を追加。(英語Ⅱ)
- ・ 陳玉莉兼任講師辞退により、劉心苗兼任講師に変更。(中国語入門)
- ・ 芦野眞理子兼任講師辞退、他に担当教員がいるため支障はない。(文章表現演習、読書技術演習)
- ・ 原真太郎兼任講師辞退により、池田寛人兼任講師に変更。(臨床心理学)
- ・ 出雲春明兼任講師辞退により、高石憲明兼任講師に変更。(生命倫理学)
- ・ 武島玲子兼任講師辞退により、大賀優兼任講師に変更。(リスク管理学)
- ・ 武田英之兼任講師辞退。共同担当教員がいるため支障はない。

【令和3年度】

- ・ 山崎郁子教授の担当科目を追加。(作業学演習Ⅱ：織物・園芸)
- ・ 池田恭敏教授の担当科目(運動学Ⅱ、作業学演習Ⅱ：織物・園芸)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(プロフェッショナルスキル)
- ・ 館岡周平助教が講師に昇任。
- ・ 福山英明教授の担当科目を追加。(基礎作業療法学見学実習)
- ・ 福士勇人講師の担当科目を追加。(自然科学基礎演習、プロフェッショナルセミナー)
- ・ 安藤剛夫兼担教授退職により、足立英彦兼担教授に変更。(心理学、人間関係論、人間発達学、コミュニケーション論)
- ・ 川端真由美兼担講師退職により、岡部裕美兼任講師に変更。(音楽の世界)
- ・ 前田仁士兼担教授の担当科目を削除。(内科学)
- ・ 三浦達浩兼担教授の担当科目(アドバンストセミナー)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)
- ・ 川口由起子兼担教授が、兼担教授に昇任。
- ・ 倉山太一兼担教授の担当科目(インターメディアイトセミナー)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(チーム医療演習)
- ・ 遠藤隆志兼担教授の担当科目(体育(バドミントン)、体育(水泳))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技C、体育実技D)
- ・ 角正美兼担講師が准教授に昇任。担当科目(チーム医療演習)を削除及び追加。(インターメディアイトセミナー)
- ・ 松岡瑞雄兼担助教の担当科目(自然科学基礎演習、エレメンタリーセミナー)を削除及び追加。(義肢学・装具学)
- ・ 植草泰憲兼担助教の担当科目(プロフェッショナルセミナー)
- ・ 鈴木瑛貴兼担講師の担当科目(体育(ダンス))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技C)
- ・ 野澤和弘兼担教授の担当科目を追加。(社会福祉学)
- ・ 高橋文紀兼任講師辞退により、李雨テイ兼任講師に変更。(経済学入門)
- ・ 吉澤樹理兼任講師辞退により、泉賢太郎兼任講師に変更。(環境科学)
- ・ 中島亮一兼任講師の担当科目(体育(ソフトボール))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技A、体育実技B)
- ・ 馬場宏輝兼任講師の担当科目(体育(水泳))廃止のため削除及び新設の担当科目を追加。(体育実技D)
- ・ 有富桂子兼任講師の担当科目(薬理学)を削除及び追加。(生化学)なお薬理学は、村山俊彦兼任講師に変更。
- ・ 勝呂徹兼任講師辞退により、渡辺敬也兼任講師に変更。(整形外科学)
- ・ 林幸子兼任講師辞退により、川上裕子兼任講師に変更。(看護学)
- ・ 教育課程充実の理由により、羽生一予兼任講師を追加。(作業学演習Ⅱ：織物・園芸)

【令和4年度】

- ・ 山崎郁子教授の担当科目(基礎作業療法学見学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(地域作業療法学実習、アドバンストセミナー、日常生活活動と作業療法Ⅱ)
- ・ 池田恭敏教授の担当科目(作業療法治療学総論Ⅱ、基礎作業療法学見学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(身体機能と作業療法治療学Ⅰ)
- ・ 白田貴洋教授の担当科目(基礎作業療法学見学実習、地域作業療法学実習、作業療法評価学臨床実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、エレメンタリーセミナー、日常生活活動と作業療法Ⅱ)
- ・ 千田直人准教授の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、エレメンタリーセミナー、身体機能と作業療法治療学Ⅱ)
- ・ 大塚栄子講師の担当科目(エレメンタリーセミナー、作業療法評価学臨床実習、解剖学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、作業療法治療学総論Ⅰ、作業療法治療学総論Ⅱ、認知機能と作業療法治療学、摂食嚥下の作業療法、日常生活活動と作業療法Ⅱ、基礎作業療法学見学実習)
- ・ 大平雅弘講師の担当科目(プロフェッショナルスキル、基礎作業療法学見学実習、地域作業療法学実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、解剖学実習、身体機能と作業療法治療学Ⅱ)
- ・ 館岡周平兼担講師の担当科目(エレメンタリーセミナー、基礎作業療法学見学実習、地域作業療法学実習、作業学演習Ⅲ：陶芸・手工芸)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、作業療法治療学総論、作業療法治療学総論Ⅱ、就労支援と作業療法学、日常生活活動と作業療法Ⅱ、認知機能と作業療法評価学、身体機能と作業療法治療学Ⅰ、身体機能と作業療法治療学Ⅱ)
- ・ 福山英明教授の担当科目(地域作業療法学実習、作業療法評価学臨床実習)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(アドバンストセミナー、インターメディアイトセミナー、作業療法治療学総論Ⅰ、作業療法治療学総論Ⅱ、日常生活活動と作業療法Ⅰ)
- ・ 桑名俊一兼担教授の担当科目を追加。(リハビリテーション研究法)
- ・ 戸丸俊文兼担教授退職により、横田経一郎兼担教授に変更。(読書技術演習)
- ・ 三浦達浩兼担教授の担当科目を追加。(アドバンストセミナー、医用画像特論)
- ・ 早川雅晴兼担教授の担当科目名称を変更。(基礎生物学→バイオリテラシー入門)
- ・ 倉山太一兼担教授の担当科目(リハビリテーションとロボットテクノロジー)を削除(共同担当教員がいるため支障はない。)及び追加。(インターメディアイトセミナー、医用画像特論)
- ・ 松岡瑞雄兼担助教の担当科目を追加。(医用画像特論)
- ・ 千葉諭兼担助教の担当科目を追加。(医用画像特論)
- ・ 遠藤隆志兼担教授の担当科目を追加。(体育実技A、体育実技B)
- ・ 福士勇人兼担講師退職により、後任に窪谷珠江助教(助手から昇任)を追加(アドバンストセミナー)及び菅原仁兼任講師に変更。(動作分析学)その他担当科目は、共同担当教員がいるため支障はない。(自然科学基礎演習、プロフェッショナルセミナー)
- ・ 小野まどか兼担講師産休・育休により、轟晶晶兼任講師に変更。(教育学入門)
- ・ 科目の新設のため、足立英彦兼担教授の科目を担当科目を追加。(行動科学入門)
- ・ 小西美ゆき講師(チーム医療演習、看護学)を採用。
- ・ カレンベルクブレナ兼任講師辞退により、パウルケルードウィヒ兼任講師に変更。(ドイツ語入門)
- ・ 溝口恭利兼任講師辞退により、松本良二兼任講師に変更。(内科学)
- ・ 我妻敏博兼任講師辞退により、國井光男兼任講師に変更。(特別支援教育概論)
- ・ 阿部慎司兼任講師、石森佳幸兼任講師辞退により、須田匡也兼任講師、中島絵梨兼任講師、園田優兼任講師、安江憲治兼任講師に変更。(画像診断学)
- ・ 福澤恵兼任講師辞退により、削除。(身体機能と作業療法治療学Ⅱ、加齢と作業療法学)身体機能と作業療法治療学Ⅱは、共同担当教員のほか、千田直人准教授、館岡周平講師、大平雅弘講師を追加、加齢と作業療法学は、共同担当教員がいるため支障はない。
- ・ 布施千草兼任講師辞退により、削除。(摂食嚥下の作業療法)共同担当教員のほか、大塚栄子講師を追加。
- ・ 高橋健兼任講師辞退により、削除。(就労支援と作業療法学)共同担当教員のほか、館岡周平講師を追加。
- ・ 池田寛人兼任講師辞退により、宮澤洋磁兼任講師に変更。(臨床心理学)
- ・ 川上裕子兼任講師辞退により、小西美ゆき講師に変更。(看護学)
- ・ 指導体制見直しにより、澤谷篤兼任講師を追加。(精神医学)
- ・ 大賀優兼任講師の担当科目を削除。(リスク管理学)共同担当教員のほか、長谷川大悟兼任講師を追加。
- ・ 宮崎泰兼任講師辞退により、三浦達浩教授、倉山太一准教授、松岡瑞雄助教、千葉諭助教、伊藤正明兼任講師に変更。(医用画像特論)
- ・ 指導体制見直しにより、雄鷹賢哉兼任講師を追加。(精神機能と作業療法治療学Ⅰ、精神機能と作業療法治療学Ⅱ)

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A/C教員審査)を受けてください。**A/C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書(A/C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
9	3	4	4	20	2	9	4	4	4	21	1
(8)	(3)	(3)	(4)	(18)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
9	4	4	4	21	1	9	4	4	4	21	1
[—]	[1]	[—]	[—]	[1]	[Δ1]	[—]	[1]	[—]	[—]	[1]	[Δ1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授67 准教授以下65 歳	2 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{20} = \boxed{105} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{21} = \boxed{9.52} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{2} = \boxed{50} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	鷲田 孝保	R1.12	必修	エレメンタリーセミナー	①	R1.12月不慮の事故による怪我のため、自宅療養により就任辞退（2）						
				必修	作業療法学概論	①							
				必修	作業学	①							
				必修	作業学演習Ⅰ：木工	①							
				必修	作業学演習Ⅱ：織物・園芸	①							
				必修	発達機能と作業療法評価学	①							
				必修	発達機能と作業療法治療学	①							
				必修	地域作業療法学実習	①							
				必修	作業療法評価学臨床実習	①							
				必修	総合臨床実習Ⅰ	①							
				必修	総合臨床実習Ⅱ	①							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	12	科目	必修	12	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	12	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）		後任補充状況の集計（E）+（G）											
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）							
1	人	必修	12	科目	必修	12	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	12	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{20} = \boxed{5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和2年度に就任予定であった専任教員(鷲田孝保教授)について、不慮の事故による怪我のため自宅療養することとなり、やむを得ず就任辞退となったが、後任として専任教員(福山英明教授)を採用、配置するとともに、担当予定科目を学科内で分担変更することにより、学生の履修に不利益がないよう配慮を行っている。
令和2年度入学生に対しては、年度初めのガイダンスにより専任教員の配置及び授業担当者に関する周知を図った。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 ・設置の趣旨等を記載した書類Ⅴ教員組織の編成の考え方及び特色「4.採用計画」に記載したとおり、新設の作業療法学専攻の運営を軌道に乗せるため、本学定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めている。	履行中 ・学校法人植草学園教員配置会議において、長期的視野に基づき教員の補充等について検討している。定年規程を超える教員は、新設の作業療法学専攻の運営を軌道に乗せるために必要な人材であると考えている。完成年度前に定年を迎える教員については、後に同分野を担当できる教員に引き継ぎ、教育研究の継続性を確保する。
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況調査時 (令和3年)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>植草学園大学学則第38条第2項の規定に基づき、植草学園大学におけるファカルティ・ディベロップメントについて必要な事項を定めることを目的として、「植草学園大学ファカルティディベロップメントに関する規定」を設けている。この規程に基づき「FD委員会」を設置している。</p> <p>植草学園大学・植草学園短期大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程</p> <p style="text-align: center;">〔制 定 令和2年4月1日〕</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 この規程は、植草学園大学学則第38条第2項の規定及び植草学園短期大学学則第28条の2第2項の規定に基づき、植草学園大学及び植草学園短期大学（以下「大学及び短期大学」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。</p> <p>(教育方法等改善のための組織的取組)</p> <p>第2条 大学及び短期大学は、建学の精神並びに教育理念及び教育目標に基づき、教員が主体的に行う教育方法等の改善に資することを目的として教育方法の研究、工夫を積極的に推進するために、次の各号に掲げる事項に組織的に取り組むものとする。</p> <p>一 授業評価に関する事項</p> <p>二 新任教員研修に関する事項</p> <p>三 講演会・シンポジウム等の開催に関する事項</p> <p>四 教員の教授活動相互研鑽に関する事項</p> <p>五 教育効果を上げるための教授法改善、シラバスの工夫、成績評価、教材開発等に関する事項</p> <p>六 広報活動に関する事項</p> <p>七 その他教育方法等の改善に関する事項</p> <p>(FD委員会の設置)</p> <p>第3条 前条に規定する事項について審議・検討を行うため、FD委員会を置く。</p> <p>(FD委員会の組織)</p> <p>第4条 FD委員会は、次の者をもって組織する。</p> <p>一 大学及び短期大学の学長</p> <p>二 大学及び短期大学の副学長</p> <p>三 大学の各学部長</p> <p>四 短期大学学科長</p> <p>五 大学学科主任</p> <p>六 大学の各学部から選出された教授各1名</p> <p>七 大学事務局長</p> <p>八 企画課長</p> <p>九 その他大学及び短期大学の学長が指名した者</p> <p>2 前項第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>3 第1項第9号の委員は、必要に応じて置くものとする。</p> <p>(委員長及び副委員長)</p> <p>第5条 FD委員会に委員長及び副委員長を置く。</p> <p>2 委員長は、大学及び短期大学の学長が協議の上指名する者をもって充て、副委員長は、委員長が指名した者をもって充てる。</p> <p>3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。</p> <p>4 副委員長は、委員長を補佐し、必要に応じて、その職務を代理する。</p> <p>(会議)</p> <p>第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。</p> <p>2 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。</p> <p>3 委員長は、必要に応じて委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。</p> <p>(庶務)</p> <p>第7条 FDに関する庶務は、企画課において処理する。</p> <p>(規程の改廃)</p> <p>第8条 この規程の改廃は、大学・短期大学の学長が大学・短期大学運営会議の意見を聴いて行う。</p> <p>附 則 (令和2年6月3日学長承認)</p> <p>1 この規程は、令和2年6月3日から施行し、4月1日から適用する。</p> <p>2 植草学園大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程（平成20年4月1日制定）は、廃止する。</p>

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

(令和3年度実績)

- ・第1回FD委員会(令和3年4月14日)
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長、企画課長
- ・第2回FD委員会(令和3年5月12日)
出席者：委員長、学長、発達教育学部長、リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、企画課長
- ・第3回FD委員会(令和3年6月9日)
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、短大学科長、発達支援教育学科主任、リハビリテーション学科主任、発達教育学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・第4回FD委員会(令和3年7月14日)
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、リハビリテーション学科主任、発達支援教育学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・第5回FD委員会(令和3年9月8日)
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、リハビリテーション学科主任、発達支援教育学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・臨時FD委員会(令和3年10月13日)（授業改善のための実態調査に係る学生ヒアリング）
出席者：委員長、企画課長、学生代表 子ども未来学科2名
- ・臨時FD委員会(令和3年11月22日)（授業改善のための実態調査に係る学生ヒアリング）
出席者：委員長、企画課長、学生代表 子ども未来学科2名
- ・臨時FD委員会(令和3年11月24日)（授業改善のための実態調査に係る学生ヒアリング）
出席者：委員長、企画課長、学生代表 発達教育学部1名・保健医療学部1名
- ・第6回FD委員会(令和3年12月8日)
出席者：委員長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・第7回FD委員会(令和3年12月22日) メール審議
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、リハビリテーション学科主任、短大学科長、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長
- ・第8回FD委員会(令和4年2月9日)
出席者：委員長、学長、副学長・保健医療学部長、発達教育学部長、発達支援教育学科主任、リハビリテーション学科主任、短大学科長(オンライン)、発達教育学部選出教員、保健医療学部選出教員、短大選出教員、大学事務局次長・学務課長、企画課長

c 委員会の審議事項等

- ・授業評価に関する事項
- ・新任教員研修に関する事項
- ・FDに関する講演会・シンポジウム等の開催に関する事項
- ・教員の教授活動相互研鑽に関する事項
- ・教育効果を上げるための教授法改善、シラバスの工夫、成績評価、教材開発等に関する事項
- ・FDに関する広報活動に関する事項
- ・その他教育方法等の改善に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・大学、短大合同FD研修会の実施（年5回）
- ・授業改善の取り組み事例の発表
- ・学生による「授業改善のための実態調査」（授業アンケート）の実施

b 実施方法

大学・短大合同FD研修会は、教授会後の時間を利用して計5回実施した。

当日やむを得ず欠席となった教員にも、録画した動画を視聴してもらうことで全員参加としている。

いずれも終了後にアンケートを実施し、理解度の確認を行っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- | | | | |
|-----|------|--------|--|
| 第1回 | 令和3年 | 5月19日 | 「本学における数理・データサイエンス」必修化の背景と実施の方向性（全教員参加） |
| 第2回 | 令和3年 | 6月16日 | 「優れた授業の取り組み事例」～令和2年度ティーチング・ポートフォリオから～（全教員参加） |
| 第3回 | 令和3年 | 9月15日 | 「公的研究費に関わるコンプライアンスについて」（全教員参加） |
| 第4回 | 令和3年 | 10月20日 | 「授業科目間の成績評価の平準化について」（全教員参加） |
| 第5回 | 令和4年 | 1月19日 | 「教育の質保証と学修成果の可視化」（全教員参加） |

- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- ① FD研修において、授業改善の取り組み事例を発表する場を設け、教育方法や授業を展開する上での工夫などを共有することで、各々が授業構成について振り返る機会とした。
 - ② 学生に対する授業評価アンケートは、全学で学内ポータルシステム（キャンパスプランポータル）のアンケート機能により、WEBアンケート形式で実施している。令和3年度より、学生から入力された自由意見に対して、教員から回答コメントを入力できる機能を活用し、これまで以上に学生へのフィードバックができる環境とした。学生からの要望を汲み取り、可能な限り反映させることにより授業改善を図っている。
 - ③ これらのFD研修会によって、教育の質保証の観点からシラバス作成、授業内容、成績評価法について学内の共通化を図った。

③学生に対する授業アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

(令和3年度実績)

実施時期：前期 令和3年5月10日～令和3年7月末日
後期・通期 令和3年11月1日～令和4年1月21日

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生に対する授業評価アンケートは、今年度より、全学で学内ポータルシステム（キャンパスプランポータル）のアンケート機能によりWEBアンケート形式で実施している。学生及び教員は、各自が履修又は担当している授業のアンケート結果を、学生回答の翌日の自動集計により閲覧可能である。結果はホームページ上で公表している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

保健医療学部リハビリテーション学科は、建学の精神に基づいた豊かな人間性と高度な知識及び高い倫理性を備えた人材養成を推進し、保健医療福祉の現場において、リハビリテーションの専門家として地域社会の発展に寄与する人材養成を目的としている。特に、地域の高齢化社会に対応できるように学科内に、理学療法学と作業療法学の2専攻を置くことにより、リハビリテーションの需要に幅広く対応できる体制を築くこととした。令和3年度の入試では、入学定員80名（理学40名、作業40名）に対し、全入試形態の合計で187名（理学134名、作業53名）の志願者が集まった。

理学療法学専攻に関しては妥当な学力を持つ学生を確保することが出来、44名の入学者を確保することができた。作業療法学専攻に関しては、37名の合格者のうち実際に入学したのは20名であった。作業療法学専攻においては、入学定員数を確保するため、広報活動を強化する必要がある。教育課程に関してはコロナ禍も2年目となり遠隔授業を少なくし、対面授業を多くした。臨床実習科目も、施設等の協力により実施することができた。したがってカリキュラムポリシーに沿った教育を行うことができた。今後も目的達成のために、申請時の計画を確実に履行していく次第である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「令和3年度自己点検評価書」を令和4年7月中に公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開（令和4年7月中）

③ 認証評価を受ける計画

令和2年度「公益財団法人高等教育評価機構」の認証評価を受審し、適格認定を受けた。

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。